

DB2[®] クエリー・パトローラー



使用者の手引き

バージョン 7

DB2[®] クエリー・パトローラー



使用者の手引き

バージョン 7

ご注意!

本書、および本書がサポートする製品をご使用になる前に、65ページの『付録B. 特記事項』にある一般的な情報を必ずお読みください。

本書において、日本では発表されていない IBM 製品 (機械およびプログラム)、プログラミング、またはサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、弊社がこのような IBM 製品、プログラミング、またはサービスを、日本で発表する意図があることを必ずしも示すものではありません。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

原典：	SC09-2960-00 IBM® DB2® Query Patroller User's Guide Version 7
発行：	日本アイ・ビー・エム株式会社
担当：	ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2000.6

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 1999, 2000. All rights reserved.

Translation: © Copyright IBM Japan 2000

目次

本書について	v
本書の対象読者	v
表記規則	vi

第1部 QueryEnabler 1

第1章 QueryEnabler の紹介	3
始める前に	3
QueryEnabler の使用	5
初めて照会を実行依頼する場合	6
以前に実行依頼した照会の実行依頼	15

第2部 QueryMonitor 19

第2章 QueryMonitor の紹介	21
QueryMonitor の開始と停止	21
QueryMonitor のメイン・ウィンドウにあるデフォルトの列の概要	22
QueryMonitor のメイン・ウィンドウにある押しボタン	24
QueryMonitor の使用	24
ジョブ・リストの表示	25
ジョブの詳細情報の表示	30
新しいジョブの実行依頼	37
ジョブの再実行依頼	38

ジョブの状況の変更	38
結果セットの削除	39

第3部 付録および後付け 41

付録A. DB2 ライブラリーの使用法	43
DB2 PDF ファイルおよびハードコピー版資料	43
DB2 情報	43
PDF 資料の印刷	55
印刷資料の注文方法	55
DB2 オンライン文書	56
オンライン・ヘルプへのアクセス	56
オンライン情報の表示	58
DB2 ウィザードの使用	60
文書サーバーのセットアップ	62
オンライン情報の検索	63

付録B. 特記事項	65
商標	68

索引	71
--------------	----

IBM と連絡をとる	75
製品情報	75

本書について

本書では、DB2 クエリー・パトローラー環境のユーザーを対象に、QueryEnabler や QueryMonitor を使用するための情報や手順を示します。すべての DB2 クエリー・パトローラー・ツールは、構成済みの Java Runtime Environment (JRE) を必要とします。DB2 クエリー・パトローラー・ツールを使えるよう構成するために実行する必要があるステップは、コントロールセンターを構成するときのステップと同じです。

本書は、ワークステーション上で JRE 環境が実行されていることを前提としています。任意の DB2 グラフィック・ツール向けに JRE 環境をセットアップする方法については、インストールおよび構成 補足のコントロール・センターのインストールおよび構成の項を参照してください。

本書中の、管理者権限またはオペレーター権限を持つユーザー向けの記述は、読者がすでに以下の関連資料を読んで精通していることを前提としています。

- *DB2 クエリー・パトローラー 管理の手引き (SC88-8525-00)*
- *DB2 クエリー・パトローラー インストールの手引き (GC88-8526-00)*

本書の対象読者

ビジネスには、毎日大量のデータを収集することが伴います。このデータの中には、発注処理、在庫目録、買掛管理、POS トランザクション、そして顧客情報などの情報があります。また、内外の情報源から、人口統計やメーリング・リストのようなデータを入手することもあります。このようなデータはすべて、データウェアハウスに格納されます。データウェアハウスを上手に利用すれば、ビジネス上の意思決定を改善して、今日のダイナミックな市場で競争を勝ち抜く助けになります。貴社においても、データウェアハウスをインプリメントした結果、新しいビジネス・チャンスや、しばしば見過ごされがちなビジネス・チャンスを見付ける助けを得てこられたことでしょう。

データウェアハウスに対して発行される照会は、しばしば資源の過度の利用につながることがあります。貴社においては、ビジネス・チャンスを求めてデータウェアハウスに対して実行される照会に関連する資源コストの管理を目的として、DB2 クエリー・パトローラーがインストールされています。

本書は、照会の実行依頼とモニターを行う、データウェアハウスのユーザーを対象としています。このようなユーザーは、アプリケーションから照会を実行

依頼し、照会の結果セットを分析するのが一般的です。こうした環境では、DB2 クエリー・パトローラーによって管理される照会を実行依頼するのに、QueryEnabler を使用します。また、実行依頼したこれらの照会のモニターと管理を行うには、QueryMonitor を使用します。

本書は 2 つの部分に分かれています。表1 を参考にして、どの部分に興味があるのかを確認してください。

表1. 『DB2 クエリー・パトローラー 使用者の手引き』の編成

部	説明
1ページの『第1部 QueryEnabler』	ここには、DB2 クエリー・パトローラー・サーバーが管理する照会をスケジュールおよび実行するために、QueryEnabler を使用するための情報と手順が記載されています。DB2 クエリー・パトローラー環境で初めて照会を実行依頼する時には、この項をお読みください。
19ページの『第2部 QueryMonitor』	ここには、DB2 クエリー・パトローラー・サーバーが管理する照会をモニターするために、QueryMonitor を使用するための情報と手順が記載されています。QueryEnabler を使って実行依頼した照会の管理方法についての詳細が必要な場合は、この項をお読みください。

表記規則

本書では、以下の表記規則を使用しています。

- **太文字 (Boldface)** は、コマンドやグラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI) のコントロール (フィールド名、フォルダー名、アイコン名、メニュー選択項目など) に使います。
- *イタリック (Italics)* は、変数に使います。変数は、ユーザー自身の値に置き換える必要があります。また、マニュアルのタイトルや語句の強調用として使うこともあります。
- モノスペース (Monospace) を使っているファイル名、ディレクトリー・パス、テキスト例などは、ユーザーがそのまま正確に入力しなければなりません。
- 照会 をジョブ と呼ぶことがあります (その逆もあります)。

第1部 QueryEnabler

第1章 QueryEnabler の紹介

QueryEnabler は、アプリケーションからの動的照会を代行受信し、データベースに送信する前にそれらの照会を DB2 クエリー・パトローラー・サーバーへ転送します。DB2 クエリー・パトローラー・サーバーと QueryEnabler はその後、照会結果を照会アプリケーションに戻します。

QueryEnabler を使用するためには、DB2 クエリー・パトローラー・サーバーまたは DB2 アドミニストレーション・クライアントのインストール時に、QueryEnabler Tool サブコンポーネントをインストールしておく必要があります。詳細については、DB2 クエリー・パトローラー インストールの手引きを参照してください。

注: パラメーター・マーカを指定した動的 SQL ステートメントについては、このリリースの DB2 クエリー・パトローラーではサポートされていません。

始める前に

この章のステップでは、DB2 クエリー・パトローラー インストールの手引きの説明のとおり、QueryEnabler がインストールされていることを前提としています。QueryEnabler を使用する前に、自分のユーザー・アカウント用のユーザー・プロファイルを管理者に作ってもらってください。また、管理者がこのセクションの詳細に通じていることを確認するようにしてください。

QueryEnabler は Java ベースのツールなので、使用するワークステーションには、十分な Java 仮想マシン用のヒープ・スペースがなければなりません。JAVA_HEAP_SZ データベース・マネージャー構成 (dbm cfg) パラメーターに、2000 以上の値を設定するようにします。このパラメーターを 4096 に設定するようお勧めします。

JAVA_HEAP_SZ dbm cfg パラメーターを更新するには、以下のステップを実行します。

ステップ 1. データベース照会を発行するインスタンスに対するシステム管理 (SYSADM) 権限を持つユーザーとして、システムへログオンします。SYSADM 権限、およびこの権限を授与されるユーザーの詳細については、管理の手引きを参照してください。

ステップ 2. 次のコマンドを入力して、 `JAVA_HEAP_SZ dbm cfg` パラメーターを 4096 へ更新します。

```
db2 update dbm cfg using JAVA_HEAP_SZ 4096
```

ステップ 3. DB2 クライアントの `dbm cfg` ファイルを更新する場合には、**db2 terminate** コマンドを入力します。DB2 サーバー上の `dbm cfg` ファイルを更新する場合には、データベース・マネージャーを停止してから再始動する必要があります。そのためには、**db2stop** コマンドを入力してから、**db2start** コマンドを入力します。

この `dbm cfg` パラメーターの詳細については、[管理の手引き](#) を参照してください。

QueryEnabler を使用して照会をキャプチャーするには、トラップする照会を実行するデータベースで、`DYN_QUERY_MGMT` データベース構成 (`db cfg`) パラメーターを `ENABLE` に設定する必要があります。`DYN_QUERY_MGMT db cfg` パラメーターの更新が済んだら、照会を実行依頼できます。その照会は、DB2 クエリー・パトローラー・サーバーによってキャプチャーされることとなります。

`DYN_QUERY_MGMT db cfg` パラメーターを更新するには、以下のステップを実行します。

ステップ 1. データベース照会を発行するデータベースに対して、最低でもデータベース管理 (DBADM) 権限を持つユーザーとして、システムへログオンします。DBADM 権限、およびこの権限を授与されるユーザーの詳細については、[管理の手引き](#) を参照してください。

ステップ 2. DB2 クエリー・パトローラーを使用可能にしたいデータベースへのすべての接続を終了するため、以下のコマンドを入力します。

```
db2stop force
db2start
```

ステップ 3. 次のコマンドを入力して、`DYN_QUERY_MGMT db cfg` パラメーターを `DYN_QUERY_MGMT ENABLE` へ更新します。

```
db2 update db cfg for database_alias using DYN_QUERY_MGMT ENABLE
```

ここで `database_alias` は、DB2 クエリー・パトローラーを使用可能にしたいデータベースの別名です。

この `dm cfg` パラメーターの詳細については、[DB2 クエリー・パトローラー管理の手引き](#) を参照してください。

たとえば、SAMPLE データベースが DB2 クエリー・パトローラーを使用できるようにし、DB2 クエリー・パトローラー・サーバーへ経路指定される照会を実行依頼する場合には、以下のコマンドを入力します。

```
db2stop force
db2 update db cfg for SAMPLE using DYN_QUERY_MGMT ENABLE
db2start
db2 connect to SAMPLE
db2 "select * from org"
```

実行する照会のコストが、ユーザーのプロファイルで定義されている管理しきい値を超過する場合は、「QueryEnabler: 新規照会 (QueryEnabler: New Query)」または「QueryEnabler: 結果セット (QueryEnabler: Result Sets)」ウィンドウが開きます。

この照会が DB2 クエリー・パトローラー・サーバーのジョブ表に存在する場合、「QueryEnabler: 結果セット (QueryEnabler: Result Sets)」ウィンドウが開きます。この照会が存在しない場合、「QueryEnabler: 新規照会 (QueryEnabler: New Query)」ウィンドウが開きます。この時点で開いているウィンドウをクローズするには、「**取消 (Cancel)**」をクリックします。

ウィンドウが開かない場合、実行依頼した照会は、それぞれの管理者が定義した管理しきい値を超過していません。デフォルトでは、管理者がユーザーまたはグループのために設定した管理しきい値 パラメーターを超過しない照会が、トラップされたり DB2 クエリー・パトローラー・サーバーに経路指定されたりすることはありません。照会が管理しきい値を超過しなければ、照会はデータベースに対して実行され、結果セットが自動的にアプリケーションへ戻されます。その場合、DB2 クエリー・パトローラー・サーバーは結果表を作成しません。

続く項で説明されている例を使って QueryEnabler を利用する場合、管理者は QueryAdmin を使用して、読者のユーザー ID の管理しきい値 パラメーターを 0 に設定することが必要です。詳細については、DB2 クエリー・パトローラー 管理の手引き を参照してください。

QueryEnabler の使用

この項では、QueryEnabler および照会の実行依頼時に開くウィンドウの概要を説明します。DB2 クエリー・パトローラー・サーバーへ経路指定する照会を実行依頼する前に、管理者が **dqpstart** コマンドを使ってサーバーを始動したことを確認する必要があります。管理者だけが、DB2 クエリー・パトローラー・サーバーを始動する権限を持っています。詳細については、DB2 クエリー・パトローラー 管理の手引き を参照してください。

アプリケーションから実行依頼された照会が、ユーザー・プロファイルに管理者が設定した管理しきい値を超過すると、その照会は QueryEnabler によってトラップされ、DB2 クエリー・パトローラー・サーバーへ経路指定されません。DB2 クエリー・パトローラー・サーバーはジョブ表を検索し、この照会が以前に実行依頼されているかどうか、そしてこの照会の結果が DB2 クエリー・パトローラーのデータベースに格納されているかどうかを確認します。

実行依頼された照会がジョブ表に見つからない場合は、「QueryEnabler: 新規照会 (QueryEnabler: New Query)」ウィンドウが開きます。実行依頼された照会がジョブ表に存在する場合は、「QueryEnabler: 結果セット (QueryEnabler: Result Sets)」ウィンドウが開きます。

以下の項では、それぞれのウィンドウを詳しく説明しています。

- 『初めて照会を実行依頼する場合』
- 15ページの『以前に実行依頼した照会の実行依頼』

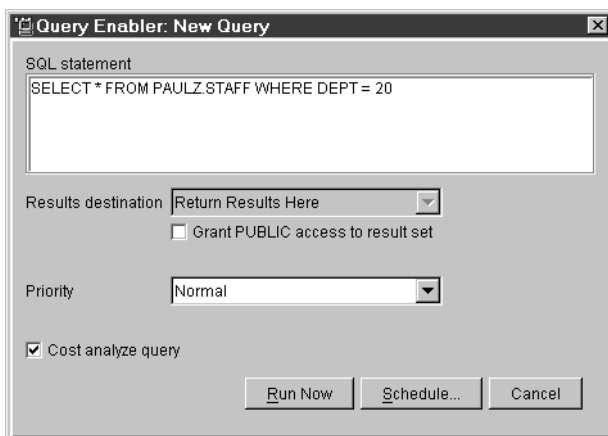
初めて照会を実行依頼する場合

初めて照会を実行依頼する場合は、「QueryEnabler: 新規照会 (QueryEnabler: New Query)」ウィンドウが開きます。

たとえば、以下のコマンドを入力して新しい照会を作成し、部門 20 に関係するすべてのスタッフを選択するとします。

```
db2 terminate
db2 connect to sample
db2 "select * from paulz.staff where dept = 20"
```

このコマンドを入力すると、QueryEnabler は照会をトラップします。以前にこの照会を実行したことがないので、「QueryEnabler: 新規照会 (QueryEnabler: New Query)」ウィンドウが開きます。たとえば、次のようになります。



実行依頼した照会が、「**SQL ステートメント (SQL statement)**」ボックスに示されます。「QueryEnabler: 新規照会 (QueryEnabler: New Query)」ウィンドウで、この照会の実行依頼オプションを定義し、実行依頼してすぐに実行するか、あるいは別のときに実行するようスケジュールすることができます。

照会の実行依頼オプションの定義

照会を実行依頼するときには、照会の結果を別の宛先にリダイレクトする、照会を優先順位付けする、または照会のコスト分析を実行しないなどのオプションを指定することができます (自分のユーザー・プロファイルにその権限がある場合)。これらのオプションは、実行する照会を実行依頼またはスケジュールする前に 定義しなければなりません。

管理者が照会で生成される結果セットのために別の宛先を設定している場合、「**結果の宛先 (Results destination)**」ドロップダウン・ボックスをクリックし、この照会の結果セットの別の宛先を選択することができます。

照会のための別の宛先がないときには、このフィールドは使用できず、デフォルトの「**ここに結果を戻す (Return Results Here)**」になります。この設定では、照会の結果セットを格納するために、DB2 表が使われます。この宛先を選択する場合、「**PUBLIC に結果セットへのアクセス権限を付与 (Grant PUBLIC access to result set)**」チェック・ボックスをチェックすれば、PUBLIC にこの宛先へのアクセス権限を付与することができます。これにより、すべてのユーザーがその結果セットへアクセスできるようになります。

「**優先度 (Priority)**」ドロップダウン・ボックスをクリックし、該当する優先度を選択すれば、照会の優先順位を任意に設定できます。デフォルトでは、「**低 (Low)**」、「**中 (Normal)**」、および「**高 (High)**」の 3 つの異なる優先順

位があります。このような優先順位は、DB2 クエリー・パトローラー・サーバーの管理者が定義します。詳細については、*DB2 クエリー・パトローラー 管理の手引き* を参照してください。

デフォルトでは、「**照会コスト分析 (Cost analyze Query)**」チェック・ボックスが選択されています。ユーザー・プロファイルの設定に、任意選択でコスト分析を要求する権利が含まれている場合、このチェック・ボックスを選択解除し、実行依頼する照会のコスト分析を省略できます。詳細については、*DB2 クエリー・パトローラー 管理の手引き* を参照してください。

コスト分析が実行されると、照会コストの見積もりが生成され、ユーザー・プロファイルの「ユーザーしきい値 (*User Threshold*)」値と比較されます。管理者は、DB2 クエリー・パトローラー環境内のユーザーのそれぞれに、ユーザーしきい値レベルを決定します。ユーザーまたはグループに定義されたユーザーしきい値を変更できるのは、管理者だけです。詳細については、*DB2 クエリー・パトローラー 管理の手引き* を参照してください。

見積もられるコストがユーザーに設定されている限界を超過する場合、その照会の状況は「**保留 (Held)**」に変わります。実行依頼したジョブが保留になる場合、照会を実行するには、管理者かオペレーターに、ジョブの状況を変更してもらう必要があります。ジョブの状況は、**QueryMonitor** を使用して変更できません。詳細については、21ページの『第2章 QueryMonitor の紹介』を参照してください。

「**取り消し (Cancel)**」をクリックすれば、照会の実行依頼を取り消すことができます。

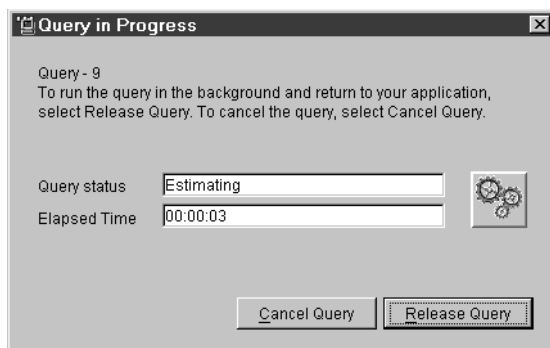
照会のためのすべてのオプションを定義したら、照会を実行依頼するか、または後で実行するようスケジュールすることができます。照会を実行するときには、以下の項を参照してください。

- 『照会の即時実行』
- 10ページの『後で照会を実行するためのスケジュール』

照会の即時実行

実行依頼した照会を実行することを選択できます。実行依頼した照会をすぐに実行するには、「**すぐに実行 (Run Now)**」をクリックします。「照会の進行

(Query in Progress)」ウィンドウが開きます。たとえば、次のようになります。



この時点で、照会は DB2 クエリー・パトローラー・サーバーの制御下に入ります。サーバーは、照会に関連したコストが、管理者によって設定されたしきい値を超過しない限り、照会を実行します。

「照会の進行 (Query in Progress)」ウィンドウには、実行依頼した照会の状況と経過時間が示されます。「照会の状況 (Query status)」フィールドの中で、実行中の照会の状況が順次更新されます。DB2 クエリー・パトローラー・サーバーは実行依頼された照会にリソースを割り当てて、順位付けをするため、照会の状態が変更されるには少し時間がかかることがあります。

たとえば照会の状況が、「評価中 (Estimating)」から「スケジュール設定 (Scheduled)」に変わるかもしれません。「スケジュール設定 (Scheduled)」状態にある照会は、より高い優先順位の照会が完了するまで保留にされます。リソースが使用可能になって、照会が実行できるようになると、状況は「実行中 (Running)」に変わります。

照会の実行を続け、アプリケーションに戻るには、「照会の解除 (Release Query)」をクリックします。照会を解除すると、制御がアプリケーションに戻ります。照会の処理は続けられ、DB2 クエリー・パトローラー・サーバーのデータベースは、照会の結果セットに従って更新されます。

照会を完了するのに長い時間がかかり、結果セットに含まれる情報をすぐに必要としない場合には、照会を解除することができます。同じ照会を後で実行依頼すると、DB2 クエリー・パトローラー・サーバーはこの照会を認識し、

「QueryEnabler: 結果セット (QueryEnabler: Result Sets)」ウィンドウが開きます。ユーザーは、この照会と関連した結果セットを必要な時に検索できます。同じ照会を実行依頼すると、その照会を以前に実行依頼したときに生成された、照会の条件を満たす結果表に対して表スキャンが実行されます。

一般に、管理者は、多数の照会を実行依頼してから解除することにより、データウェアハウスのユーザーが後で実行依頼する照会に備えておくことができます。以前に DB2 クエリー・パトローラー・サーバーで処理した照会の実行依頼についての詳細は、15ページの『以前に実行依頼した照会の実行依頼』を参照してください。

照会を取り消すには、「**取り消し (Cancel)**」をクリックします。

照会の処理が正常に完了したら、クエリー・パトローラーのデータベースに、結果セットの表が作成されます。照会を解除しなかったのであれば、この結果セットがアプリケーションに戻されます。たとえば、次のようになります。

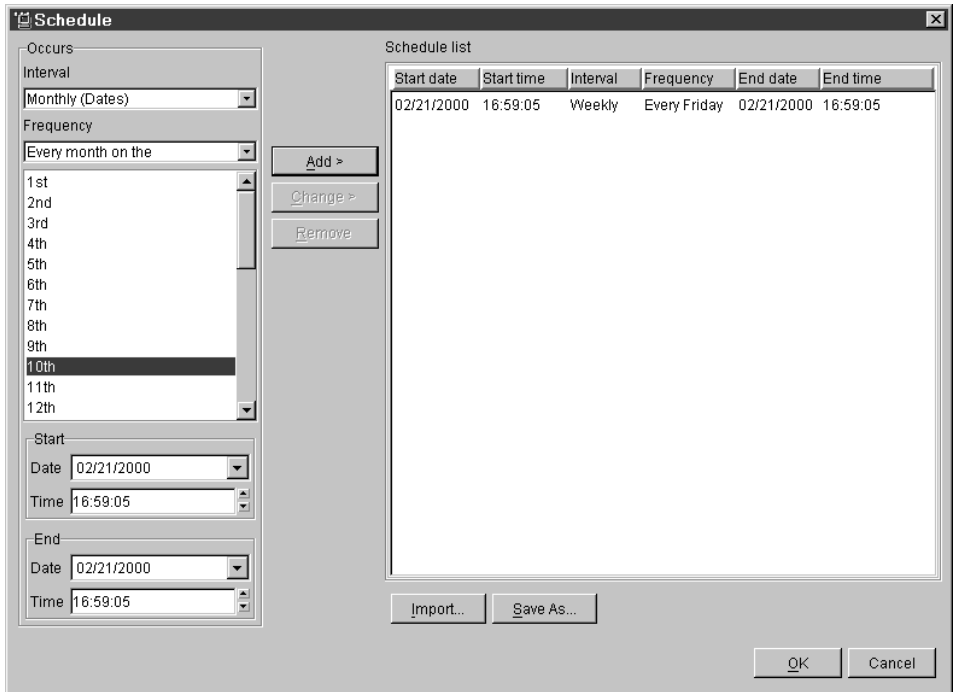
ID	NAME	DEPT	JOB	YEARS	SALARY	COMM
10	Sanders	20	Mgr	7	18357.50	-
20	Pernal	20	Sales	8	18171.25	612.45
80	James	20	Clerk	-	13504.60	128.20
190	Sneider	20	Clerk	8	14252.75	126.50

4 record(s) selected.

実行依頼した照会のモニター方法の詳細は、21ページの『第2章 QueryMonitorの紹介』を参照してください。

後で照会を実行するためのスケジュール

実行依頼した照会を、日時を組み合わせることによって、後で実行するようスケジュールすることができます。たとえば、照会を毎週月曜日の朝 9:00 に実行することができます。照会をスケジュールするには、「**スケジュール (Schedule)**」をクリックします。「スケジュール (Schedule)」ウィンドウが開きます。たとえば、次のようになります。



照会をスケジュールするには、以下のステップを実行します。

ステップ 1. 「**実行の設定 (Occurs)**」ボックスで、この照会をいつ実行するかを定義します。

照会の実行時間を定義するには、以下のステップを実行します。

- a. 「**間隔 (Interval)**」ドロップダウン・ボックスをクリックし、実行依頼した照会の間隔を選択します。

照会の間隔と頻度を指定することにより、柔軟なスケジュールが可能になります。これを使って、ジョブを実行依頼する時を定義することができます。選択する間隔に応じて、頻度オプションは変化します。間隔と頻度の特性を組み合わせることにより、実質的にどんな照会スケジュールでも選択できます。

以下の間隔のいずれかを選択します。

一回だけ (One time only)

この照会を一回だけ実行することを指定します。

たとえば、固定した一時点について定義されたある仮定を検証するために、照会を実行するとします。この場合、2000年7月10日に一度だけ照会を実行できるかもしれません。

時間単位 (Hourly)

この照会を時間単位のスケジュールで実行することを指定します。照会の頻度、開始日付、終了日付を指定できます。

たとえば、時刻とコール・センターが受けた電話の量との関係を調べるために、照会を実行するとします。この場合、12時間ごとに(朝と夕方に1回ずつ)照会を実行できるかもしれません。

日単位 (Daily)

この照会を日単位のスケジュールで実行することを指定します。照会の頻度、開始日付、終了日付を指定できます。

たとえば、支払期限を3日過ぎた勘定と、最終的に集金機関に送られた勘定との相関関係を調べるために照会を実行するとします。この場合、照会を3日おきに実行できます。

週単位 (Weekly)

この照会を週単位のスケジュールで実行することを指定します。照会の頻度、開始日付、終了日付を指定できます。

たとえば、特定の曜日は他の曜日よりも株価が変動しやすいという見方が妥当かどうかを調べるために、照会を実行するとします。この場合、毎週火曜日に照会を実行できるかもしれません。

月単位 (日付) (Monthly (Dates))

この照会を特定の日に月単位で実行することを指定します。照会の頻度、開始日付、終了日付を指定できます。

たとえば、デパートにおける消費者の製品需要と、消費者がクレジット・カードの請求書を受け取る日付との関連を定義するために照会を実行するとします。この場合、照会を毎月10日に実行できるかもしれません。

月単位 (曜日) (Monthly (Days))

この照会を特定の曜日に月単位で実行することを指定します。照会の頻度、開始日付、終了日付を指定できます。

たとえば、株式オプションの期限が切れる日の株式の取り引き高を調べるために照会を実行するとします。この場合、照会を毎月第 3 金曜日に実行できます。

年単位 (Yearly)

この照会を年単位で実行することを指定します。照会の頻度、開始日付、終了日付を指定できます。

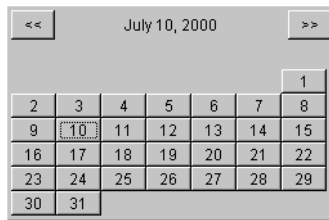
たとえば、予想した年末の成果と、年末における実際の成果を比べるために照会を実行するとします。この場合、照会を年に 1 回実行できます。

- b. 「**頻度 (Frequency)**」ドロップダウン・ボックスをクリックし、選択した間隔レベルと共に使用する、適切な頻度を選択します。「**間隔 (Interval)**」ドロップダウン・ボックスで選択した間隔によっては、頻度オプションが変わることがあります。

ステップ 2. ここまでで指定した間隔や頻度のオプションに基づき、照会を実行できるようにする日時を指定します。選択する日時は、照会を実行するときの一連の時間設定に組み込まれます。

たとえば、毎月第 4 火曜日に照会を実行するよう定義しますが、2001 年 12 月 10 日までは、この条件を実行しないという場合があります。この照会の開始日を月の第 4 火曜日に指定した場合、このことが照会のスケジュールに組み込まれます。

日付を定義するときには、「**日付 (Date)**」フィールドをクリックし、この照会の開始日を入力します。さらに、「**日付 (Date)**」ドロップダウン・ボックスもクリックします。カレンダーが開くので、そこから日付を選択することができます。たとえば、次のようになります。



時間を定義するときには、「**時間 (Time)**」フィールドをクリックし、この照会の開始時間を入力します。また、「**時間 (Time)**」スピン・ボタンを使い、照会を開始する時間を調整することも可能です。

- ステップ 3. 前のステップで用いた方法と同じやり方で、指定した間隔と頻度に基づき、照会の実行を停止する日時を指定します。選択する日時は、照会を実行するときの一連の時間設定に組み込まれます。たとえば、2001 年 12 月 10 日以降は毎月第 4 火曜日に照会を実行するよう定義しますが、2003 年 12 月 10 日以降はこの条件を実行しないという場合があります。
- ステップ 4. 「**追加>> (Add>>)**」をクリックします。照会のスケジュールが、「**スケジュール・リスト (Schedule list)**」ボックスに移動します。スケジュールした項目を変更するには、「**スケジュール・リスト (Schedule list)**」ボックスから照会を選択し、必要な変更を行ない、「**変更 (Change)**」をクリックします。「**スケジュール・リスト (Schedule list)**」ボックスから照会を削除するには、照会を選択して「**削除 (Remove)**」をクリックします。
- ステップ 5. 「**OK**」をクリックします。照会は、指定した間隔、頻度、時間、そして日付に実行するようスケジュールされます。

照会に定義したスケジュールについては、後でそのスケジュールをインポートして、同じ照会または別の照会に対して使うことができるように、保管しておくことができます。この機能を使えば、しばしば使われるスケジュールを再定義する時間を節約できます。スケジュールを保管するには、「**別名保管 (Save As)**」をクリックします。定義したスケジュールは、拡張子が `.cal` のスケジュール・ファイルとして保管されます。定義したスケジュールをインポートするには、「**インポート (Import)**」をクリックします。

選択した照会のスケジュールを取り消す場合には、「**取り消し (Cancel)**」をクリックします。「**QueryEnabler: 新規照会 (QueryEnabler: New Query)**」ウィンドウに戻ります。

実行依頼した照会のモニター方法の詳細は、21 ページの『第 2 章 QueryMonitor の紹介』を参照してください。

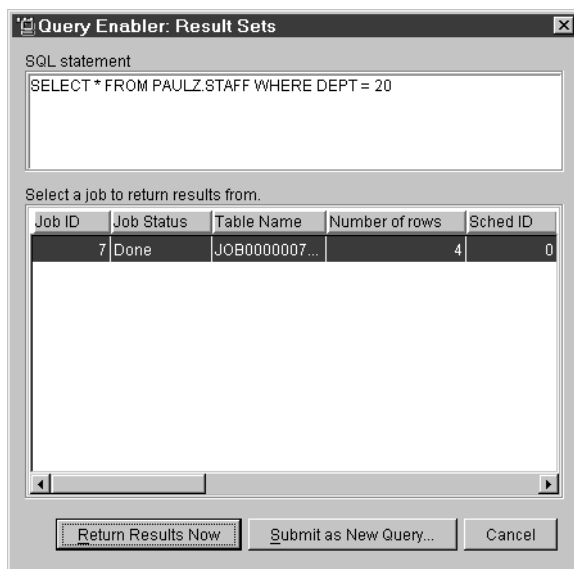
以前に実行依頼した照会の実行依頼

以前に実行依頼した照会を実行依頼する場合、その照会が DB2 クエリー・パトローラー・サーバーのジョブ表に格納されていれば、QueryEnabler はその照会をトラップし、「QueryEnabler: 結果セット (QueryEnabler: Result Sets)」ウィンドウが開きます。

たとえば、以下のコマンドを入力して、6ページの『初めて照会を実行依頼する場合』で実行依頼した照会を実行依頼するとします。

```
db2 terminate
db2 connect to sample
db2 "select * from paulz.staff where dept = 20"
```

このコマンドを入力すると、照会はトラップされます。この照会は以前に実行依頼されており、DB2 クエリー・パトローラー・サーバーのジョブ表に存在するので、「QueryEnabler: 結果セット (QueryEnabler: Result Sets)」ウィンドウが開きます。たとえば、次のようになります。



実行依頼した照会が、「SQL ステートメント (SQL statement)」ボックスに示されます。「QueryEnabler: 結果セット (QueryEnabler: Result Sets)」ウィンドウで、以前に実行依頼した同一の照会からの結果セットを戻すか、照会を再実行依頼して別の実行依頼オプションを指定するか、あるいは別のときに実行するようにスケジュールできます。

この照会の実行対象となるデータに変更がある場合、通常は、照会を再実行依頼します。たとえば、それぞれのデータウェアハウスに対して照会を実行して、特定の製品のターゲットとなるマーケットを判別したものの、元の照会を実行した後に、そのデータウェアハウスが更新されて、人口統計のデータが新しくなった場合、それぞれの照会を再実行依頼して、更新されたデータを取り出すことができます。

「**取り消し (Cancel)**」をクリックすれば、実行依頼した照会を取り消すことができます。また、進行中のジョブも取り消せます。照会の状態が「**評価中 (Estimating)**」、**「スケジュール設定 (Scheduled)**」、または「**待ち行列 (Queued)**」である場合、「**結果を戻すジョブの選択 (Select a job to return results from)**」ボックスでジョブを選択し、マウスの右ボタンをクリックし、「**取り消し (Cancel)**」オプションを選択します。すでに実行依頼されている照会の取り消しは、通常は QueryMonitor を使って行なわれます。

この照会に関連した結果セットをアプリケーションへ戻すには、「**結果を戻すジョブの選択 (Select a job to return results from)**」ボックスから、有効な時間に実行依頼されたジョブを選択し、「**結果をすぐに戻す (Return Results Now)**」をクリックします。

「**結果を戻すジョブの選択 (Select a job to return results from)**」ボックスには、同じ照会を含み、以前に実行依頼されたすべてのジョブのリストが示されます。正常に完了したジョブには、データウェアハウスのデータに基づいた、時間が関係した照会の結果セットが含まれています。データウェアハウスが更新されると、結果セットのデータは変わるか、古くなってしまう可能性があるため、注意してください。データが最新でなくなり、正しくない推論が生み出される状態を、**ダーティー** ということがあります。結果セットのデータが**ダーティー**になっているように思われる場合、以前に実行依頼したジョブを選択し、マウスの右ボタンをクリックし、「**結果の削除 (Drop Results)**」オプションを選択して、そのジョブに関連した結果セットを削除することができます。

「**結果をすぐに戻す (Return Results Now)**」をクリックしたら、照会の結果がアプリケーションに戻されます。たとえば、次のようになります。

ID	NAME	DEPT	JOB	YEARS	SALARY	COMM
10	Sanders	20	Mgr	7	18357.50	-
20	Pernal	20	Sales	8	18171.25	612.45
80	James	20	Clerk	-	13504.60	128.20
190	Sneider	20	Clerk	8	14252.75	126.50

4 record(s) selected.

照会を再実行依頼する場合は、「**新規照会の実行依頼 (Submit as New Query)**」をクリックします。「QueryEnabler: 新規照会 (QueryEnabler: New Query)」ウィンドウが開きます。詳細については、6ページの『初めて照会を実行依頼する場合』を参照してください。

実行依頼した照会のモニター方法の詳細は、21ページの『第2章 QueryMonitor の紹介』を参照してください。

第2部 QueryMonitor

第2章 QueryMonitor の紹介

DB2 クエリー・パトローラー 使用者の手引き のこのセクションでは、QueryMonitor の概要を説明します。ユーザーは、QueryMonitor を使用し、データウェアハウスへ実行依頼した照会、および DB2 クエリー・パトローラー・サーバーへ渡された照会を管理できます。さらに、実行依頼した照会を取り消し、新しいジョブを実行依頼し、照会の既存の結果セットを削除し、照会についての詳細情報を表示することができます。管理者またはオペレーターは、QueryMonitor を使用し、QueryEnabler によってトラップされ、DB2 クエリー・パトローラー・サーバーへ経路指定された、データウェアハウス・ユーザーによる照会を管理できます。

QueryMonitor を使用するためには、DB2 クエリー・パトローラー・サーバーまたは DB2 アドミニストレーション・クライアントのインストール時に、QueryMonitor Tool サブコンポーネントをインストールしておく必要があります。詳細については、DB2 クエリー・パトローラー インストールの手引き を参照してください。

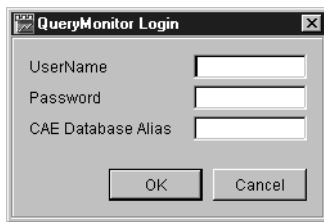
QueryMonitor の開始と停止

QueryMonitor を開始して停止するには、以下のステップを実行します。

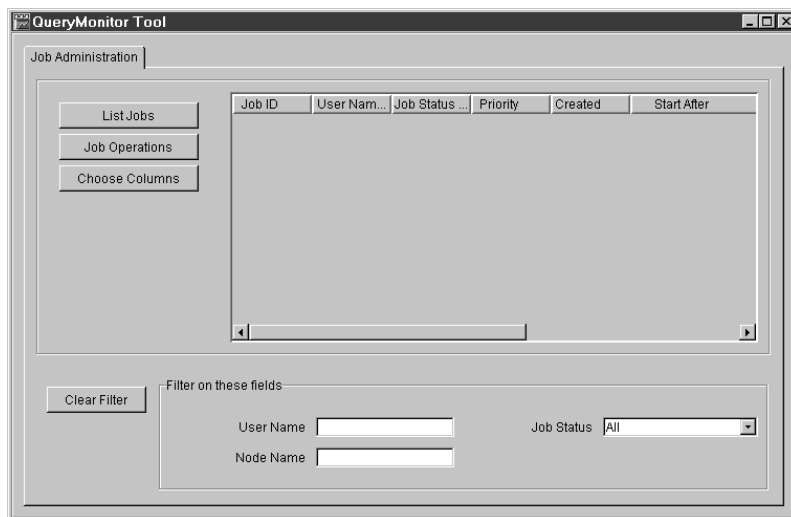
ステップ 1. **QueryMonitor** コマンドを入力し、QueryMonitor を開始します。

Windows NT または Windows 2000 では、「スタート」をクリックし、「プログラム」->「IBM DB2」->「DB2 クエリー・パトローラー (Query Patroller)」->「QueryMonitor」の順に選択します。

「QueryMonitor ログイン (QueryMonitor Login)」ウィンドウが開きます。



- ステップ 2. 「ユーザー名 (UserName)」と「パスワード (Password)」フィールドに、照会を実行依頼したときのユーザー・アカウント、あるいは管理者またはオペレーター権限を持つユーザーのユーザー・アカウントの、ユーザー名とパスワードを入力します。
- ステップ 3. 「CAE データベース別名 (CAE Database Alias)」フィールドに、モニターする照会が実行依頼されたときのデータベースのデータベース別名を入力します。
- ステップ 4. 「OK」をクリックします。
QueryMonitor のメイン・ウィンドウが開きます。



- ステップ 5. QueryMonitor を停止する場合は、アクティブ・ウィンドウを単にシャットダウンしてください。

QueryMonitor のメイン・ウィンドウにあるデフォルトの列の概要

表2 には、QueryMonitor のメイン・ウィンドウに表示される、各デフォルト列の概要が示されています。QueryMonitor のメイン・ウィンドウで列を追加したり削除する方法については、27ページの『列の選択』を参照してください。

表2. QueryMonitor のメイン・ウィンドウにあるデフォルトの列の概要

列	説明
ジョブ ID (Job ID)	実行依頼されたジョブの ID を表示します。
ユーザー名 (User Name)	ジョブを実行依頼したユーザーのユーザー名を表示します。

表2. QueryMonitor のメイン・ウィンドウにあるデフォルトの列の概要 (続き)

列	説明
ジョブの状況 (Job Status)	<p>実行依頼されたジョブの状況が示されます。ジョブの状況は、以下の状態のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 打ち切り (Aborted) - エラーのために、ジョブは打ち切られました。 • 取り消し (Cancelled) - ユーザーの要求でジョブが取り消されました。 • 終了 (Done) - ジョブは正常に完了しました。 • 評価中 (Estimating) - DB2 クエリー・パトローラーは、このジョブに関連したコストを判別しています。 • 保留 (Held) - ジョブに関連したコストがユーザーのしきい値を超過し、管理者またはオペレーター権限を持つユーザーによる、人手による介入が必要です。 • 待ち行列 (Queued) - ジョブは実行を待機しています。 • 実行中 (Running) - ジョブが進行中です。 • スケジュール設定 (Scheduled) - ジョブは、実行するシステム・リソースを待機しています。
優先順位 (Priority)	実行依頼されたジョブに割り当てられている優先順位を示します。
作成日時 (Created)	ジョブが作成された日時が表示されます。
実行可能日時 (Start After)	実行依頼されたジョブを実行する予定の日時を表示します。
完了日時 (Completed)	実行依頼されたジョブが完了、打ち切り、または取り消された日時を表示します。
結果行 (Result Rows)	ジョブの結果セットの行数が示されます。
結果宛先 (Result Destination)	ジョブの結果が代替宛先に保存された場合に、その宛先が表示されます。管理者が別の結果宛先を定義していない場合、この値は null になります。
結果表名 (Result Table Name)	ジョブの結果がデフォルトの宛先に保存された場合に、その結果表の名前が表示されます。
推定コスト (Estimated Cost)	ジョブにかかったコストの推定値が表示されます。

QueryMonitor のメイン・ウィンドウにある押しボタン

表3 は、 QueryMonitor のメイン・ウィンドウにある各押しボタンの説明をまとめたものです。

表3. QueryMonitor のメイン・ウィンドウにある押しボタン

押しボタン	説明
ジョブ・リスト (List Jobs)	DB2 クエリー・パトローラー・サーバーへ実行依頼されたジョブのリストを表示します。この押しボタンは、 QueryMonitor のメイン・ウィンドウの内容を最新表示するときにも使用できます。
ジョブの操作 (Job Operations)	QueryMonitor を使用して実行できる他の機能のリストが表示されます。この押しボタンを使って、ジョブの詳細を表示したり、ジョブの状況を変更したり、結果表を削除したり、ジョブを再実行依頼したり、新しいジョブを実行依頼したりできます。
列の選択 (Choose Columns)	QueryMonitor のメイン・ウィンドウに表示する列を選択するときに使います。列リストをカスタマイズしても、それが有効なのは、現行の QueryMonitor セッションの期間だけです。 QueryMonitor を再始動すると、デフォルトの列が表示されます。
フィルターをクリアする (Clear Filter)	QueryMonitor のメイン・ウィンドウのフィルター処理の基準をクリアするときに使います。

QueryMonitor の使用

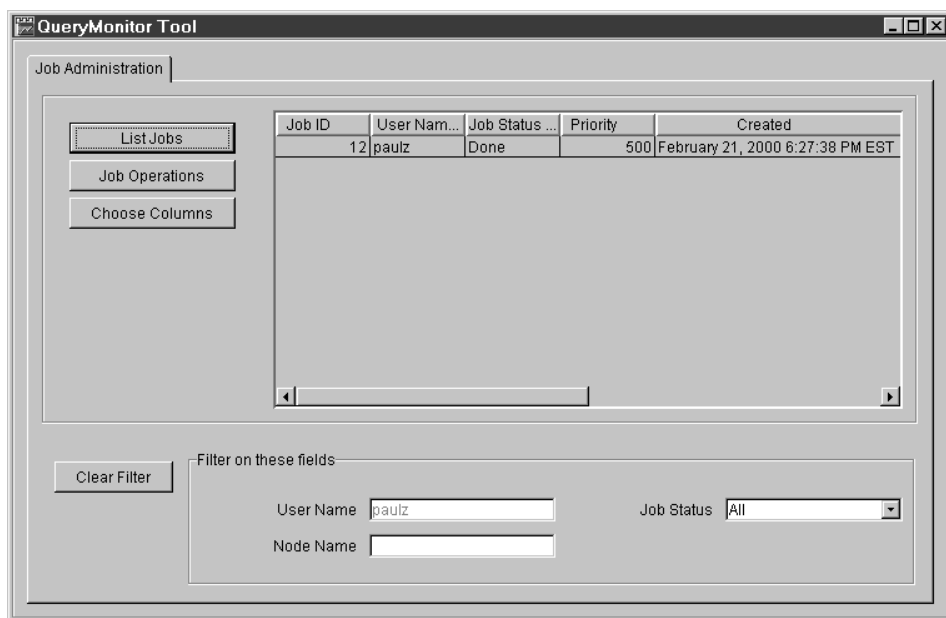
この項では、 QueryMonitor に関連した最も一般的な作業を完了する方法を説明します。実行する作業を説明している項を参照してください。

- 25ページの『ジョブ・リストの表示』
- 30ページの『ジョブの詳細情報の表示』
- 37ページの『新しいジョブの実行依頼』
- 38ページの『ジョブの再実行依頼』
- 38ページの『ジョブの状況の変更』
- 39ページの『結果セットの削除』

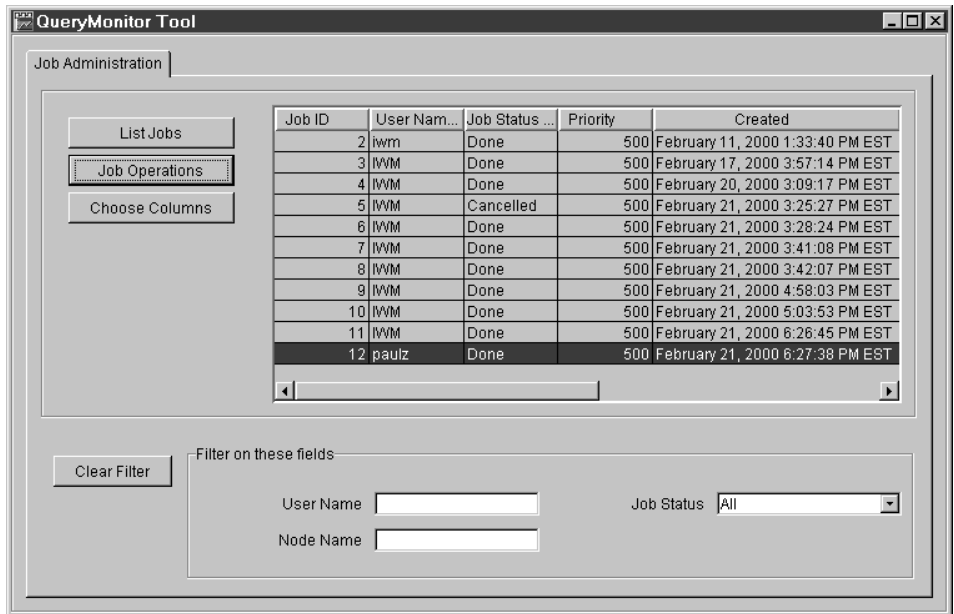
ジョブ・リストの表示

QueryMonitor を開始すると、21ページの『QueryMonitor の開始と停止』に示されているように、QueryMonitor のメイン・ウィンドウが開きます。デフォルトでは、QueryMonitor のメイン・ウィンドウには、ジョブは表示されていません。

それぞれのユーザー・アカウントで実行依頼したジョブのリストを表示するには、「ジョブのリスト (List Jobs)」をクリックします。「QueryMonitor」ウィンドウに、QueryMonitor へログオンするときに使用したユーザー・アカウントで実行依頼したすべてのジョブがリストされます。たとえば、次のようになります。



管理者またはオペレーター権限を持つユーザーが「ジョブのリスト (List Jobs)」をクリックすると、すべてのユーザーによって実行依頼されたジョブのリストが戻されます。たとえば、次のようになります。



どのジョブを表示するかの指定

「以下のフィールドのフィルター (Filter on these fields)」ボックスのフィルター基準を使い、QueryMonitor のメイン・ウィンドウに示されているジョブをフィルターすることができます。たとえば、終了 (Done) 状況のジョブだけを表示したり、特定のノードにあるジョブだけを表示したり、両方の条件を組み合わせてジョブを表示したりすることができます。

管理者またはオペレーター権限を持つユーザーとして QueryMonitor へログオンしているのではない限り、自分のユーザー・アカウントに一致するジョブ以外は、表示することができません。これらの権限のいずれかを持つユーザーとしてログオンしているのであれば、その他のフィルター基準としてユーザー名も指定できます。

QueryMonitor のメイン・ウィンドウに表示するジョブを指定するには、フィルター基準を定義し、「ジョブのリスト (List Jobs)」をクリックするか、Enter キーを押す必要があります。リストされているジョブは、「以下のフィールドのフィルター (Filter on these fields)」ボックスで定義した基準に一致するジョブだけです。

注: 「ジョブの状況 (Job Status)」フィールドを変更すると、ジョブ・リストが自動的に更新されます。「ジョブのリスト (List Jobs)」をクリックし

たり、Enter キーを押したりすることによって、QueryMonitor のメイン・ウィンドウを更新する必要はありません。

以下の基準を任意に組み合わせて、QueryMonitor のメイン・ウィンドウに表示されるジョブのリストをフィルターすることができます。

ユーザー名

QueryMonitor のメイン・ウィンドウにリストする照会を持つユーザーのユーザー名を入力します。このフィールドのデフォルトは、QueryMonitor へログオンするときに使用したユーザー・アカウントになります。管理者またはオペレーター権限を持つユーザーとして QueryMonitor へログオンしていない場合、このフィールドに値を指定することはできません。

ノード名 (Node Name)

リストする照会が実行依頼されたときの、データベース区画サーバーのノード名を入力します。DB2 エンタープライズ拡張エディションの環境では、データベース区画サーバーのホスト名を入力します。DB2 エンタープライズ・エディションの環境では、このフィールドは、それぞれのワークステーションのホスト名でなければなりません。

ジョブの状況 (Job Status)

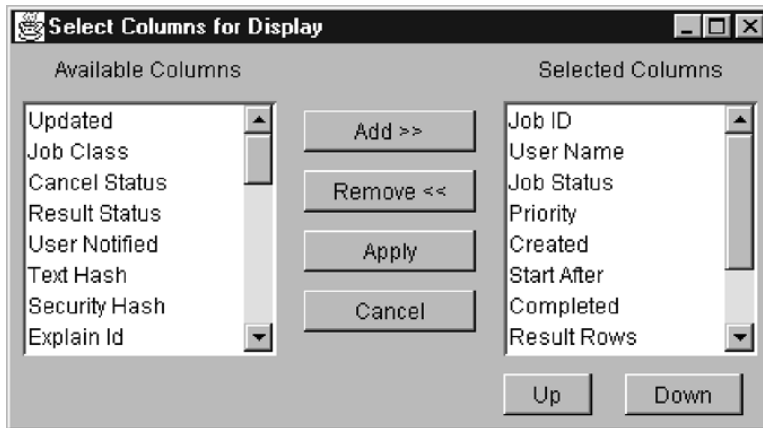
「**ジョブの状況 (Job Status)**」ドロップダウン・ボックスをクリックし、QueryMonitor のメイン・ウィンドウにリストするジョブの状況を選択します。たとえば、「**取り消し済み (Cancelled)**」オプションを選ぶと、取り消されたすべてのジョブをリストすることができます。

QueryMonitor のメイン・ウィンドウをリセットするには、「**フィルターのクリア (Clear Filter)**」をクリックします。このオプションを選ぶと、「**ユーザー名 (User Name)**」および「**ノード名 (Node Name)**」フィールドがクリアされ、「**ジョブの状況 (Job Status)**」が「すべて (ALL)」に設定されます。

列の選択

「QueryMonitor」ウィンドウに示される列をカスタマイズして、特定の情報を追跡することができます。各ジョブを記述する特性のデフォルトのリストは、QueryMonitor を開始するたびに表示されます。選択するカスタマイズ列は、現行セッションの期間だけ追加されます。QueryMonitor をクローズして再開すると、表示される列は、デフォルトのリストに戻ります。

QueryMonitor に示される列をカスタマイズするには、「**列の選択 (Choose Columns)**」をクリックします。「**表示する列の選択 (Select Columns for Display)**」ウィンドウが開きます。



「選択可能な列 (**Available Columns**)」ボックスに示されている任意の列を、QueryMonitor のメイン・ウィンドウに追加したり、そこから削除することができます。

列を追加する場合、以下のステップを実行します。

- ステップ 1. 「選択可能な列 (**Available Columns**)」ボックスから、追加する列を選択します。
- ステップ 2. 「追加>> (**Add>>**)」をクリックします。選択した列は、「選択済みの列 (**Selected Columns**)」ボックスの下部に移動します。
- ステップ 3. 「選択済みの列 (**Selected Columns**)」ボックスから追加したばかりの列を選択し、「上へ (**Up**)」または「下へ (**Down**)」をクリックして、列の順序を変更します。

注: QueryMonitor のメイン・ウィンドウで列をドラッグ・アンド・ドロップすれば、表示されている列の順序をいつでも変更することができます。

- ステップ 4. 「適用 (**Apply**)」をクリックします。QueryMonitor のメイン・ウィンドウが更新されます。これらの変更を有効にしないのであれば、「取り消し (**Cancel**)」をクリックします。

列を削除する場合、以下のステップを実行します。

- ステップ 1. 「選択済みの列 (**Selected Columns**)」ボックスから、削除する列を選択します。
- ステップ 2. 「削除 << (**Remove <<**)」をクリックします。選択した列は、「選択可能な列 (**Available Columns**)」ボックスの下部に移動します。

ステップ3. 「適用 (Apply)」をクリックします。 QueryMonitor のメイン・ウィンドウが更新されます。これらの変更を有効にしないのであれば、「取り消し (Cancel)」をクリックします。

列ごとのジョブ・リストの並べ替え

列の見出しをクリックすることにより、任意の列を昇順または降順で並べ替えることができます。列の並びが変更されるのは、現行セッションの期間だけです。 QueryMonitor をクローズして再開すると、すべての列がデフォルトの順序に戻ります。

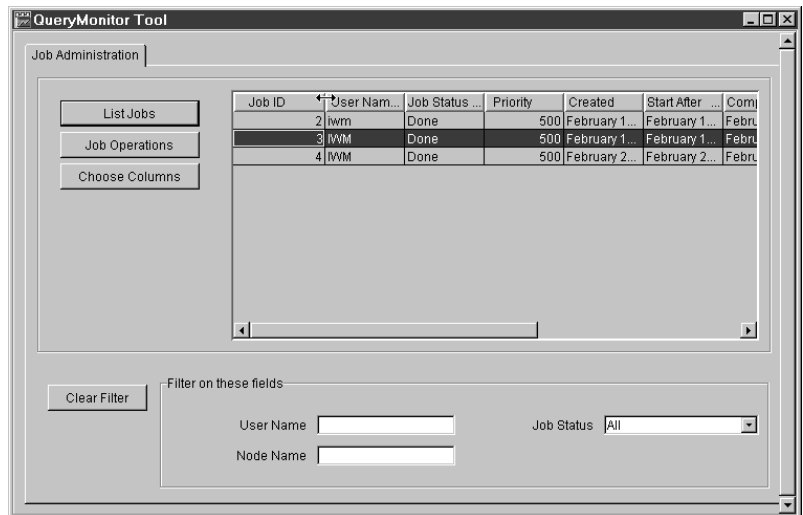
列の見出しを 1 回クリックすると、列の順序は降順に変更されます。同じ列の見出しをもう 1 回クリックすると、列は昇順に並べ替わります。

列のサイズ変更

QueryMonitor のメイン・ウィンドウに示される任意の列のサイズを変更できます。列の幅が変更されるのは、現行セッションの期間だけです。 QueryMonitor をクローズして再開すると、列の幅はデフォルトのサイズに戻ります。

列のサイズを変更する場合、以下のステップを実行します。

ステップ1. サイズを変更する列の右辺にマウス・ポインターを合わせます。マウス・ポインターが 2 重矢印の形に変わります。たとえば、次のようになります。



ステップ2. 辺の上でマウス・ボタンをクリックして押さえたまま、列を変更します。列のサイズを望む幅に変更したら、マウス・ボタンを離します。

QueryMonitor のメイン・ウィンドウの最新表示

DB2 クエリー・パトローラー・サーバーから最新の情報を取り出すには、QueryMonitor のメイン・ウィンドウを最新表示する必要があります。ただし、ジョブの状況のフィルター基準の変更や、新しいジョブの実行依頼といった操作を実行すると、このウィンドウが自動的に最新表示されます。

QueryMonitor のメイン・ウィンドウを手動で最新表示するには、「ジョブのリスト (List Jobs)」をクリックします。

ジョブの詳細情報の表示

QueryMonitor のメイン・ウィンドウでジョブを選択し、そのジョブの詳細情報を掘り下げて表示することができます。ジョブに関して特定の詳細を表示するには、以下のステップを実行します。

ステップ 1. 詳細を表示するジョブを選択します。Ctrl キーを押し続けると、複数のジョブを選択できます。

ステップ 2. 「ジョブの操作 (Job Operations)」をクリックします。

ステップ 3. ポップアップ・メニューから、「ジョブの詳細 (Job Detail)」オプションを選択します。

「ジョブの詳細情報 (Detailed Information for Job)」ウィンドウが開きます。たとえば、次のようになります。

Job ID	2	User Name	jwm
Job Status	Done	Job Class	Database
Result Status	Exists	Cancel Status	No Cancellation

Result Information | Time Information | General

Command: SELECT NAME FROM SYSIBM.SYSTABLES

Error Description:

Estimated Cost	132	Threshold Cost	9,999,999
Result Rows	167	Maximum Result Rows	0
Result Table Name	JOB0000002_RESULTS	Result Destination	
Result Table Owner	JWM	Query Source	jwm_submit
Data Source	JWM		

複数のジョブを選択した場合、選択したジョブごとに、「ジョブの詳細情報 (Detailed Information for Job)」ウィンドウが開きます。

注: ジョブをダブルクリックしても、ジョブの詳細情報を表示することができます。

「ジョブの詳細情報 (Detailed Information for Job)」ウィンドウを最新の情報で更新するには、アクション・メニュー・バーから、「ファイル (File)」->「最新表示 (Refresh)」の順に選択します。

「ジョブの詳細情報 (Detailed Information for Job)」ウィンドウをクローズするには、アクション・メニュー・バーから、「ファイル (File)」->「クローズ (Close)」の順に選択します。

「ジョブの詳細情報 (Detailed Information for Job)」ウィンドウのタブ・セクションの上にあるフィールド

表4 は、「ジョブの詳細情報 (Detailed Information for Job)」ウィンドウの上部にある各フィールドの説明をまとめたものです。

表4. 「ジョブの詳細情報 (Detailed Information for Job)」ウィンドウのタブの上にあるフィールド

フィールド	説明
ジョブ ID (Job ID)	実行依頼されたジョブの ID が示されます。
ユーザー名 (User Name)	ジョブを実行依頼したユーザーのユーザー名が示されます。
ジョブの状況 (Job Status)	ジョブの状況が示されます。
ジョブ・クラス (Job Class)	ジョブの種別が示されます。「データベース (Database)」ジョブと分類されるジョブもあれば、OS (オペレーティング・システム) ジョブと分類されるものもあります。
結果の状況 (Result Status)	ジョブの結果状況が示されます。結果状況は、以下のよう分類されます。 <ul style="list-style-type: none">• 打ち切りのため除去 (Purged due to abort)• 切り捨て (Truncated)• 存在しない (Not existing)• 存在する (Exists)• 削除 (Dropped)

表4. 「ジョブの詳細情報 (Detailed Information for Job)」ウィンドウのタブの上にあるフィールド (続き)

フィールド	説明
取り消しの状況 (Cancel Status)	<p>このジョブについて要求された取り消しの状況が示されます。取り消し状況は、以下のように分類されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 取り消しなし (No Cancellation) - 取り消しは要求されていません。 • 取り消し要求 (Cancellation Requested) - 取り消しが要求されましたが、まだ受諾されていません。 • 取り消し受諾 (Cancellation Accepted) - 取り消しが DB2 クエリー・パトローラー・サーバーによって受諾されました。

結果情報の表示

結果情報を表示するには、「ジョブの詳細情報 (Detailed Information for Job)」ウィンドウの「**結果情報 (Result Information)**」タブを選択します。「結果情報 (Result Information)」ページには、選択したジョブについての、結果関連の情報が表示されます。「結果情報 (Result Information)」ページが表示されます (下の図)。

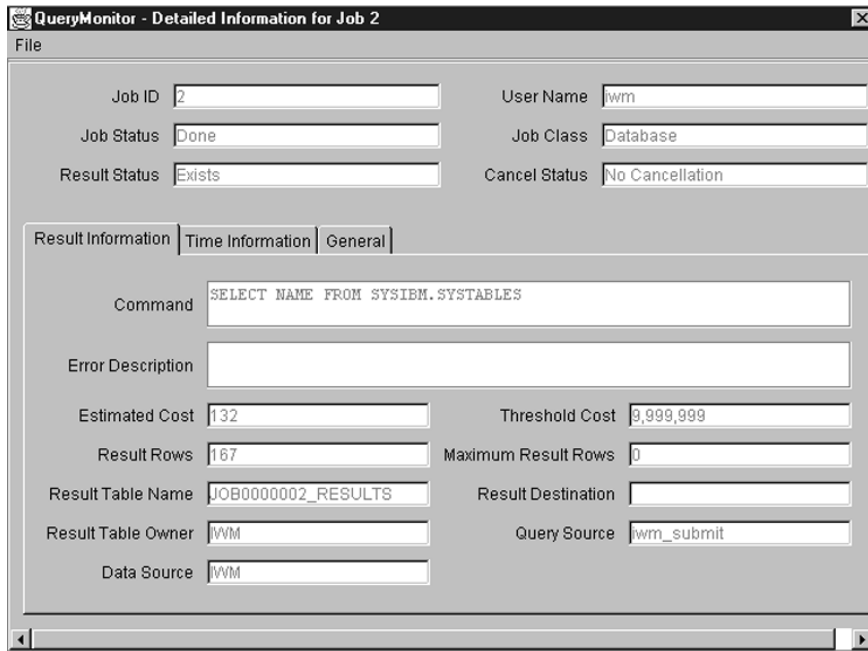


表5 は、「結果情報 (Result Information)」ページの各フィールドの説明をまとめたものです。

表5. 「結果情報 (Result Information)」ページのフィールド

フィールド	説明
コマンド (Command)	ジョブと関連したコマンドまたは照会が示されます。
エラーの説明 (Error Description)	ジョブが「保留 (Held)」または「打ち切り (Aborted)」状態の場合、このフィールドには、受け取ったエラーの説明が示されます。ジョブが「待ち行列 (Queued)」状態の場合、このフィールドには理由が示されます。
推定コスト (Estimated Cost)	ジョブにかかったデータベース・コストの推定値が表示されます。
限界コスト (Threshold Cost)	ユーザーのジョブにかかった限界コストが示されます。
結果行 (Result Rows)	ジョブの結果セットの行数が示されます。
最大結果行 (Maximum Result Rows)	このジョブに許可されている結果セットの最大行数に関するユーザーの限界値が示されます。
結果表名 (Result Table Name)	結果表の名前が示されます。

表5. 「結果情報 (Result Information)」 ページのフィールド (続き)

フィールド	説明
結果宛先 (Result Destination)	結果の代替宛先の名前が示されます (定義されている場合)。
結果表の所有者 (Result Table Owner)	結果表の所有者のユーザー名が示されます。
クエリーのソース (Query Source)	ジョブを作成したアプリケーションが示されます。
データ・ソース (Data Source)	クエリーの実行先のデータベースが示されます。

時刻情報の表示

時刻情報を表示するには、「ジョブの詳細情報 (Detailed Information for Job)」ウィンドウの「時刻情報 (Time Information)」タブを選択します。「時刻情報 (Time Information)」ページには、選択したジョブについての、結果関連の情報が表示されます。「時刻情報 (Time Information)」ページが表示されます (下の図)。

The screenshot shows a window titled "QueryMonitor - Detailed Information for Job 15". It has a menu bar with "File". Below the menu bar, there are several input fields for job details:

- Job ID: 15
- User Name: jwm
- Job Status: Done
- Job Class: Database
- Result Status: Exists
- Cancel Status: No Cancellation

Below these fields, there are three tabs: "Result Information", "Time Information" (which is selected), and "General". The "Time Information" tab contains the following fields:

- Created: February 10, 1999 8:04:03 AM F
- Updated: February 10, 1999 8:04:30 AM F
- Started: February 10, 1999 8:04:13 AM F
- Completed: February 10, 1999 8:04:15 AM F
- Notified: February 10, 1999 8:04:30 AM F
- Start After: February 10, 1999 8:04:00 AM F
- Elapsed Time: 1.266
- Max Elapsed Time: 43,200
- System Time: 0.07
- User Time: 0.12

35ページの表6 は、「時刻情報 (Time Information)」 ページの各フィールドの説明をまとめたものです。

表6. 「時刻情報 (Time Information)」 ページのフィールド

フィールド	説明
作成日時 (Created)	ジョブが作成された日時が示されます。
更新日時 (Updated)	ジョブが更新されると、このフィールドには、ジョブが更新された日時が示されます。
開始日時 (Started)	ジョブが開始された場合に、その日時が示されます。
完了日時 (Completed)	ジョブが完了した場合に、その日時が示されます。
通知日時 (Notified)	通知完了のユーザー通知が送信された場合に、その日時が示されます。
実行可能日時 (Start After)	ここに示される日時以降に、ジョブの実行スケジュールを設定できます。
経過時間 (Elapsed Time)	ジョブの実行にかかった秒数が表示されます。
最大経過時間 (Maximum Elapsed Time)	ジョブの実行時間として許容される最大秒数が示されます。
システム時間 (System Time)	このジョブの実行に使われたシステムの CPU 時間が秒単位で示されます。
ユーザー時間 (User Time)	このジョブの実行に使われたユーザーの CPU 時間が秒単位で示されます。

全般情報の表示

一般的な情報を表示するには、「ジョブの詳細情報 (Detailed Information for Job)」ウィンドウの「全般 (General)」タブを選択します。「全般 (General)」ページには、選択したジョブについての、全般情報が表示されます。「全般 (General)」ページが表示されます (下の図)。

QueryMonitor - Detailed Information for Job 5

File

Job ID: 5 User Name: WMM

Job Status: Cancelled Job Class: Database

Result Status: Not Existing Cancel Status: Cancellation Accepted

Result Information | Time Information | General

Submitting Node: Submitter ID: WMM

Explain ID: 0 Priority: 500

Queue ID: 0 Predecessor: 0

User Notified: Yes Process ID: 0

Node ID: Text Hash: -1

Security Hash: -1 Job Retries: 0

表7 の表は、「全般 (General)」ページの各フィールドの説明をまとめたものです。

表7. 「全般 (General)」ページのフィールド

フィールド	説明
実行依頼元のノード (Submitting Node)	ジョブが実行依頼されたデータベース区分サーバーのホスト名を示します。区分データベース環境以外の環境では、これは常に、クエリーが実行依頼されたワークステーションのホスト名になります。
実行依頼者 ID (Submitter ID)	ジョブを実行依頼したユーザーのユーザー名が示されます。
説明 ID (Explain ID)	Explain キャッシュにあるジョブの ID が示されます。
優先順位 (Priority)	ジョブの優先順位レベルが表示されます。
待ち行列 ID (Queue ID)	ジョブの待ち行列 ID が示されます。
直前ジョブ (Predecessor)	このジョブの実行がスケジュールされる前に、正常に完了しなければならないジョブが示されます。
ユーザー通知 (User Notified)	ジョブ完了がユーザーに通知されたかどうかを示されます。
プロセス ID (Process ID)	実行コンポーネントのプロセス ID が示されます。
ノード ID (Node ID)	ジョブが実行されたデータベース区分サーバーのホスト名を示します。区分データベース環境以外の環境では、これは常に、DB2 クエリー・パトローラー・サーバーのホスト名になります。

表7. 「全般 (General)」 ページのフィールド (続き)

フィールド	説明
テキスト・ハッシュ (Text Hash)	特定の SQL ステートメントを検索するためにスキャンする行数を限定するためのハッシュ値が示されます。
セキュリティ・ハッシュ (Security Hash)	ジョブ・データの修正を防ぐためのハッシュ値が示されます。
ジョブの再試行 (Job Retires)	タイムアウトになる場合に、DB2 クエリー・パトローラーがジョブを再試行する回数。

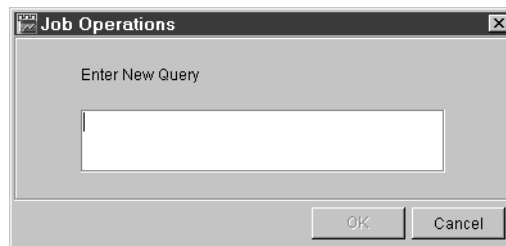
新しいジョブの実行依頼

クエリーを実行依頼するときには、アプリケーションを使用するのが普通です。クエリーは、QueryEnabler によってトラップされ、DB2 クエリー・パトローラー・サーバーへ渡されます。DB2 クエリー・パトローラー・サーバーへ直接経路指定される簡単なクエリーは、QueryMonitor を使用して実行依頼することができます。この方法により、QueryEnabler がバイパスされるので、クエリーの結果セットを表示せずに済みます。ただし、結果セットは DB2 クエリー・パトローラー・サーバーのデータベース内で更新されます。

QueryMonitor から新しいジョブを実行依頼するには、以下のステップを実行します。

- ステップ 1. 「ジョブの操作 (Job Operations)」をクリックします。
- ステップ 2. ポップアップ・メニューから、「新しいジョブ (New Job)」を選択します。

「ジョブの操作 (Job Operations)」ウィンドウが開きます。



- ステップ 3. 「新規クエリーの入力 (Enter New Query)」ボックスをクリックし、クエリーを入力します。たとえば、次のようなクエリーを入力します。

```
select * from paulz.department
```

ステップ 4. 「OK」をクリックします。ジョブ・リストが自動的に最新表示され、新しいジョブが表示されます。

ジョブの再実行依頼

QueryMonitor を使用して、すでに完了したジョブを再実行依頼することができます。ジョブを再実行依頼するには、以下のステップを実行します。

ステップ 1. 再実行依頼するジョブを選択します。終了 (Done) という状況になっているジョブを選択する必要があります。Ctrl キーを押し続けると、再実行依頼する複数のジョブを選択できます。

ステップ 2. 「ジョブの操作 (Job Operations)」をクリックします。

ステップ 3. ポップアップ・メニューから、「ジョブの再実行依頼 (Resubmit Job)」を選択します。ポップアップ・ウィンドウが開き、選択したジョブを再実行依頼することを確認してきます。

ステップ 4. ジョブを再実行依頼するのであれば「はい (Yes)」をクリックし、再実行依頼要求を取り消すのであれば、「いいえ (No)」をクリックします。

ジョブの状況の変更

QueryMonitor を使用して、ジョブの状況を変更できます。管理者またはオペレーター権限を持つユーザーとして QueryEnabler にログオンしていない場合、ジョブを取り消すことだけが可能です。

ジョブの状況を変更するには、以下のステップを実行します。

ステップ 1. 変更するジョブを選択します。選択したジョブの状況は、「評価中 (Estimating)」、「保留 (Hold)」、「待ち行列 (Queued)」、「スケジュール設定 (Scheduled)」のいずれかでなければなりません。Ctrl キーを押し続けると、複数のジョブの状況を選択できます。

ステップ 2. 「ジョブの操作 (Job Operations)」をクリックします。

ステップ 3. ポップアップ・メニューから、「状況の変更 (Modify Status)」を選択します。「ジョブの操作 (Job Operation)」ウィンドウが開きます。たとえば、次のようになります。



- ステップ 4. ドロップダウン・ボックスをクリックし、「取り消し (Cancel)」、「待ち行列 (Queue)」、または「スケジュール設定 (Scheduled)」のいずれかを選択します。
- ステップ 5. ジョブの状況を変えるのであれば「はい (Yes)」をクリックします。取り消すのであれば「いいえ (No)」をクリックします。QueryMonitor のメイン・ウィンドウは、自動的に最新表示されます。

結果セットの削除

結果セットの表示が終わったら、結果セットを削除して、データベース内のスペースを解放することができます。結果セットを削除するには、以下のステップを実行します。

- ステップ 1. 結果セットを削除するジョブを選択します。終了 (Done) という状況になっているジョブを選択する必要があります。Ctrl キーを押し続けると、複数のジョブの結果セットを削除できます。
- ステップ 2. 「ジョブの操作 (Job Operations)」をクリックします。
- ステップ 3. ポップアップ・メニューから、「結果セットの削除 (Drop Result Set)」を選択します。ポップアップ・ウィンドウが開き、削除すると選択した結果セットについて確認してきます。
- ステップ 4. 選択した結果セットを削除するのであれば「はい (Yes)」をクリックし、削除要求を取り消すのであれば、「いいえ (No)」をクリックします。

第3部 付録および後付け

付録A. DB2 ライブラリーの使用法

DB2 ユニバーサル・データベース ライブラリーは、オンライン・ヘルプ、ブック (PDF および HTML)、および HTML 形式のサンプル・プログラムから成っています。このセクションでは、ユーザーに提供される情報について紹介し、その入手方法を示します。

オンライン製品情報をご利用になるには、インフォメーション・センターを使用することができます。詳細については、59ページの『インフォメーション・センターを使用した情報へのアクセス』を参照してください。ここではタスク情報、DB2 ブック、トラブルシューティング情報、サンプル・プログラム、および Web の DB2 情報を見ることができます。

DB2 PDF ファイルおよびハードコピー版資料

DB2 情報

以下に示す表では、DB2 ブックを 4 つのカテゴリーに分類しています。

DB2 の手引きおよび解説書

これらの資料は、すべてのプラットフォームに共通の DB2 情報を含んでいます。

DB2 のインストールおよび構成の情報

これらの資料は、特定のプラットフォーム上の DB2 ごとに用意されています。たとえば、OS/2、Windows、および UNIX ベースのプラットフォームで稼働するそれぞれの DB2 用に、別個の概説およびインストール 資料が用意されています。

プラットフォーム共通のサンプル・プログラム (HTML 形式)

これらのサンプルは、アプリケーション開発クライアントとともにインストールされるサンプル・プログラムの HTML 版です。これらのサンプルは参考用であり、実際のプログラムに代わるものではありません。

リリース情報

これらのファイルには、DB2 ブックには含まれなかった最新の情報が記載されています。

インストール情報、リリース情報、およびチュートリアルは、製品 CD-ROM から HTML 形式で参照することができます。ほとんどの資料は、製品

CD-ROM から HTML 形式で表示できますし、DB2 の資料 CD-ROM から Adobe Acrobat (PDF) 形式で表示し印刷することができます。IBM にハードコピー版の資料を注文したい場合は、55ページの『印刷資料の注文方法』を参照してください。注文可能な資料については、以下の表をご覧ください。

OS/2 および Windows プラットフォームの場合、HTML ファイルは `sql1lib¥doc¥html` ディレクトリーにインストールできます。DB2 情報はいくつかの言語で提供されています。しかし、すべての言語に翻訳されているわけではありません。ある言語で情報が提供されていない場合は、英語版の情報が提供されます。

UNIX プラットフォームの場合、言語ごとに異なる複数の HTML ファイルを `doc/%L/html` ディレクトリーにインストールできます。ここで、`%L` は地域を表しています。詳細については、適切な概説およびインストールの手引きを参照してください。

DB2 ブックを入手して情報を利用するには、次のようなさまざまな方法があります。

- 58ページの『オンライン情報の表示』
- 63ページの『オンライン情報の検索』
- 55ページの『印刷資料の注文方法』
- 55ページの『PDF 資料の印刷』

表 8. DB2 情報

資料名	説明	資料番号 PDF ファイル名	HTML ディレクトリー
DB2 の手引きおよび解説書情報			
管理の手引き	管理の手引き: 計画 は、データベース概念について概説し、設計 (たとえば、論理および物理データベース設計) に関する情報を提供し、高い可用性について解説しています。	第 1 巻 SC88-8513 db2d1x70	db2d0
	管理の手引き: インプリメンテーション は、設計、データベースへのアクセス、監査、バックアップ、および回復などのインプリメンテーションについて説明しています。	第 2 巻 SC88-8511 db2d2x70	
	管理の手引き: パフォーマンス は、データベース環境について解説し、さらにアプリケーションのパフォーマンスの評価と調整の方法について説明しています。	第 3 巻 SC88-8512 db2d3x70	
管理 API 解説書	データベースの管理に使用できる DB2 アプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) およびデータ構造について説明します。また、この資料は、アプリケーションから API を呼び出す方法も示します。	SC88-8514 db2b0x70	db2b0
アプリケーション構築の手引き	環境設定に関する情報を提供し、Windows、OS/2、および UNIX ベースのプラットフォームでの DB2 アプリケーションのコンパイル、リンク、実行の各ステップについて説明します。	SC88-8515 db2axx70	db2ax
APPC, CPI-C, and SNA Sense Codes	DB2 ユニバーサル・データベース製品をご使用中に発生する可能性のあるセンス・コード APPC、CPI-C、および SNA についての一般情報を提供します。 HTML 形式でのみご利用いただけます。	資料番号なし db2apx70	db2ap

表 8. DB2 情報 (続き)

資料名	説明	資料番号	HTML
		PDF ファイル名	ディレクトリー
アプリケーション開発の手引き	DB2 データベースにアクセスするアプリケーションを、組み込み SQL または Java (JDBC および SQLJ) を使用して開発する方法について説明します。さらに、ストアド・プロシージャの作成方法、ユーザー定義関数の作成方法、ユーザー定義タイプの作成方法、トリガーの使用法、区画化されている環境または統合されているシステムでのアプリケーションの開発方法などについて解説されています。	SC88-8516	db2a0
		db2a0x70	
コール・レベル・インターフェースの手引きおよび解説書	DB2 データベースにアクセスするアプリケーションを、DB2 コール・レベル・インターフェース (Microsoft ODBC 仕様互換の呼び出し可能 SQL) を使用して開発する方法について説明します。	SC88-8517	db2l0
		db2l0x70	
コマンド解説書	コマンド行プロセッサの使用法について説明し、データベースの管理に使用できる DB2 コマンドについて解説しています。	SC88-8518	db2n0
		db2n0x70	
コネクティビティー 補足	DB2 (AS/400 版)、DB2 (OS/390 版)、DB2 (MVS 版)、または DB2 (VM 版) を DRDA アプリケーション・リクエスターとして DB2 ユニバーサル・データベースとともに使用するためのセットアップ情報および参照情報を提供します。また、この資料は DRDA アプリケーション・サーバーを DB2 コネクト アプリケーション・リクエスターとともに使用する方法の詳細を示します。	資料番号なし	db2h1
		db2h1x70	
	HTML と PDF でのみ利用可能		
データ移動ユーティリティー 手引きおよび解説書	データの移動を行う DB2 ユーティリティー (インポート、エクスポート、ロード、AutoLoader、および DPROF など) の使用法について説明しています。	SC88-8522	db2dm
		db2dmx70	

表 8. DB2 情報 (続き)

資料名	説明	資料番号	HTML
		PDF ファイル名	ディレクトリー
データウェアハウスセンター 管理の手引き	データウェアハウスセンターを使用してデータウェアハウスを構築および保守する方法を説明します。	SC88-8545 db2ddx70	db2dd
データウェアハウスセンター アプリケーション統合の手引き	プログラマーがアプリケーションをデータウェアハウスセンターおよび情報カタログ・マネージャーと統合するのに役立つ情報を提供します。	SC88-8546 db2adx70	db2ad
DB2 コネクト 使用者の手引き	DB2 コネクト製品の概念、プログラミング、および一般的な使用方法に関する情報を提供します。	SC88-8521 db2c0x70	db2c0
DB2 クエリー・パトローラー 管理の手引き	DB2 クエリー・パトローラー・システムの運用の概説を行い、運用および管理に関する詳細情報、および管理用グラフィカル・ユーザー・インターフェース・ユーティリティについてのタスク情報を提供します。	SC88-8525 db2dwx70	db2dw
DB2 クエリー・パトローラー 使用者の手引き	DB2 クエリー・パトローラーのツールや関数の使用方法を説明します。	SC88-8527 db2wwx70	db2ww
用語集	DB2 およびその構成要素で使用される用語の定義を示します。 HTML 形式と SQL 解説書 で利用可能	資料番号なし db2t0x70	db2t0
イメージ、オーディオ、およびビデオ・エクステンダー 管理およびプログラミングの手引き	DB2 エクステンダーの一般情報について提供し、画像、音声、およびビデオ (IAV) エクステンダーの管理と構成について、および IAV エクステンダーを使用したプログラミングについて説明しています。さらに、参照情報、診断情報 (メッセージ解説)、およびサンプルも収録されています。	SC88-8609 dmbu7x70	dmbu7
情報カタログ・マネージャー 管理の手引き	情報カタログを管理するためのガイドです。	SC88-8547 db2dix70	db2di
情報カタログ・マネージャー プログラミングの手引きおよび解説書	情報カタログ・マネージャー用の体系化されたインターフェースの定義を示します。	SC88-8549 db2bix70	db2bi

表 8. DB2 情報 (続き)

資料名	説明	資料番号	HTML
		PDF ファイル名	ディレクトリー
情報カタログ・マネージャー 使用者の手引き	情報カタログ・マネージャー・ユーザー・インターフェースの使用に関する情報を提供します。	SC88-8548 db2aix70	db2ai
インストールおよび構成 補足	プラットフォーム固有の DB2 クライアントの計画、インストール、およびセットアップのガイドです。この補足資料には、バインド、クライアント / サーバー通信の設定、DB2 GUI ツール、DRDA AS、分散インストール、分散要求の構成、および異種データ・ソースへのアクセスについても説明されています。	GC88-8524 db2iyx70	db2iy
メッセージ解説書	DB2、情報カタログ・マネージャー、およびデータウェアハウスセンターから出されるメッセージとコードをリストし、取るべき処置を解説しています。	第 1 巻 GC88-8543 db2m1x70	db2m0
		第 2 巻 GC88-8544 db2m2x70	
<i>OLAP Integration Server Administration Guide</i>	OLAP Integration Server の Administration Manager 構成要素の使用方法を説明します。	SC27-0782 db2dpx70	n/a
<i>OLAP Integration Server Metaoutline User's Guide</i>	標準の OLAP Metaoutline インターフェースを使用して (Metaoutline Assistant を使用するのではなく) OLAP metaoutline を作成しデータを取り込む方法を説明しています。	SC27-0784 db2upx70	n/a
<i>OLAP Integration Server Model User's Guide</i>	(Model Assistant ではなく) 標準的な OLAP Model Interface を使用して OLAP モデルを作成する方法を説明します。	SC27-0783 db2lpx70	n/a
<i>OLAP Setup and User's Guide</i>	OLAP Starter Kit の構成およびセットアップに関する情報を提供します。	SC27-0702 db2ipx70	db2ip

表 8. DB2 情報 (続き)

資料名	説明	資料番号	HTML
		PDF ファイル名	ディレクトリー
<i>OLAP Spreadsheet Add-in User's Guide for Excel</i>	Excel 作表計算プログラムを使用して OLAP データを分析する方法を説明します。	SC27-0786 db2epx70	db2ep
<i>OLAP Spreadsheet Add-in User's Guide for Lotus 1-2-3</i>	ロータス 1-2-3 作表計算プログラムを使用して OLAP データを分析する方法を説明します。	SC27-0785 db2tpx70	db2tp
レプリケーションの手引きおよび解説書	DB2 に付属の IBM レプリケーション・ツールの計画、構成、管理、および使用方法に関する情報を提供します。	SC88-8550 db2e0x70	db2e0
地理情報エクステンダー使用者の手引きおよび解説書	地理情報エクステンダーのインストール、構成、管理、プログラミング、およびトラブルシューティングに関する情報を提供します。また、地理情報データの概念についての重要事項を示し、地理情報エクステンダー固有の参照情報 (メッセージおよび SQL) を提供します。	SC88-8624 db2sbx70	db2sb
SQL 概説	SQL の概念を紹介し、構造体とタスクの例を多数提供しています。	SC88-8539 db2y0x70	db2y0
SQL 解説書	SQL の構文、セマンティクス、および言語規則について説明します。また、この資料には、各リリース間の互換性、製品の制限事項、およびカタログ・ビューも含まれます。	第 1 巻 SC88-8540 db2s1x70 第 2 巻 SC88-8657 db2s2x70	db2s0
システム・モニター 手引きおよび解説書	データベースおよびデータベース・マネージャーに関連したさまざまな情報を収集する方法を示します。この資料は、この情報を利用して、データベース活動の把握、パフォーマンス向上、および問題原因の判別を行う方法を説明しています。	SC88-8523 db2f0x70	db2f0

表 8. DB2 情報 (続き)

資料名	説明	資料番号 PDF ファイル名	HTML ディレクトリー
テキスト・エクステンダー管理およびプログラミング	DB2 エクステンダーの一般情報、テキスト・エクステンダーの管理および構成情報、およびテキスト・エクステンダーを使用したプログラミングの方法について解説します。この資料には、参照情報、診断情報 (メッセージ解説)、およびサンプルが含まれています。	SC88-8610 desu9x70	desu9
問題判別の手引き	エラーの原因の判別、問題からの回復、および DB2 カスタマー・サービスの支援の下での診断ツールの使用法を記載しています。	GD88-7271 db2p0x70	db2p0
新機能	DB2 ユニバーサル・データベースバージョン 7 の新しい機能および拡張機能について説明します。	SC88-8541 db2q0x70	db2q0
DB2 のインストールおよび構成の情報			
DB2 コネクト エンタープライズ・エディション (OS/2 および Windows 版) 概説およびインストール	OS/2 および Windows 32 ビット オペレーティング・システム版の DB2 コネクト エンタープライズ・エディションで、計画、移行、インストール、および構成を行う場合の情報を提供します。また、この資料はサポートされている多数のクライアントのインストールおよびセットアップについても説明します。	GC88-8520 db2c6x70	db2c6
DB2 コネクト エンタープライズ・エディション (UNIX 版) 概説およびインストール	UNIX ベースのプラットフォームでの DB2 コネクト エンタープライズ・エディションの計画、移行、インストール、構成、およびタスクに関する情報を提供します。また、この資料はサポートされている多数のクライアントのインストールおよびセットアップについても説明します。	GC88-8519 db2cyx70	db2cy

表 8. DB2 情報 (続き)

資料名	説明	資料番号	HTML
		PDF ファイル名	ディレクトリー
DB2 コネクト パーソナル・エディション 概説およびインストール	OS/2 および Windows 32 ビット オペレーティング・システムの DB2 コネクト パーソナル・エディションで、計画、移行、インストール、および構成を行う場合のタスク情報を提供します。また、この資料はサポートされているすべてのクライアントのインストールおよびセットアップについても説明します。	GC88-8533	db2c1
		db2c1x70	
DB2 コネクト パーソナル・エディション (Linux 版) 概説およびインストール	サポートされる Linux 配布プログラムの DB2 コネクト パーソナル・エディションで、計画、インストール、移行、および構成を行う場合の情報を提供します。	GC88-8528	db2c4
		db2c4x70	
DB2 データ・リンク・マネージャー 概説およびインストール	AIX および Windows 32 ビットオペレーティング・システムの DB2 データ・リンク・マネージャーで、計画、インストール、構成を行う場合の情報を提供します。	GC88-8532	db2z6
		db2z6x70	
DB2 エンタープライズ拡張エディション (UNIX 版) 概説およびインストール	UNIX ベースのプラットフォームでの DB2 エンタープライズ拡張エディションの計画、インストール、および構成に関する情報を提供します。また、この資料はサポートされている多数のクライアントのインストールおよびセットアップについても説明します。	GC88-8530	db2v3
		db2v3x70	
DB2 エンタープライズ拡張エディション (Windows 版) 概説およびインストール	Windows 32 ビット オペレーティング・システムの DB2 エンタープライズ拡張エディションで、計画、インストール、および構成を行う場合の情報を提供します。また、この資料はサポートされている多数のクライアントのインストールおよびセットアップについても説明します。	GC88-8529	db2v6
		db2v6x70	

表 8. DB2 情報 (続き)

資料名	説明	資料番号	HTML
		PDF ファイル名	ディレクトリー
DB2 ユニバーサル・データベース (OS/2 版) 概説およびインストール	OS/2 オペレーティング・システムでの DB2 ユニバーサル・データベースの計画、インストール、移行、および構成に関する情報を提供します。また、この資料はサポートされている多数のクライアントのインストールおよびセットアップについても説明します。	GC88-8534 db2i2x70	db2i2
DB2 ユニバーサル・データベース (UNIX 版) 概説およびインストール	UNIX ベースのプラットフォームでの DB2 ユニバーサル・データベースの計画、インストール、移行、および構成に関する情報を提供します。また、この資料はサポートされている多数のクライアントのインストールおよびセットアップについても説明します。	GC88-8536 db2ixx70	db2ix
DB2 ユニバーサル・データベース (Windows 版) 概説およびインストール	Windows 32 ビット オペレーティング・システムの DB2 ユニバーサル・データベースで、計画、インストール、移行、および構成を行う場合の情報を提供します。また、この資料はサポートされている多数のクライアントのインストールおよびセットアップについても説明します。	GC88-8537 db2i6x70	db2i6
DB2 パーソナル・エディション 概説およびインストール	OS/2 および Windows 32 ビット オペレーティング・システム版の DB2 ユニバーサル・データベース パーソナル・エディションで、計画、インストール、移行、および構成を行う場合の情報を提供します。	GC88-8535 db2i1x70	db2i1
DB2 パーソナル・エディション (Linux 版) 概説およびインストール	サポートされる Linux 配布プログラムの DB2 ユニバーサル・データベース パーソナル・エディションで、計画、インストール、移行、および構成を行う場合の情報を提供します。	GC88-8538 db2i4x70	db2i4
DB2 クエリー・パトローラー インストールの手引き	DB2 クエリー・パトローラーのインストール情報を提供します。	GC88-8526 db2iwx70	db2iw

表 8. DB2 情報 (続き)

資料名	説明	資料番号 PDF ファイル名	HTML ディレクトリー
ウェアハウス・マネージ ャー インストールの手引 き	ウェアハウス・エージェント、ウェアハ ウス・トランスフォーマー、および情報 カタログ・マネージャーのインストール 情報を提供します。	GC88-8572 db2idx70	db2id
プラットフォーム共通のサンプル・プログラム (HTML 形式)			
サンプル・プログラム (HTML)	DB2 のサポートするすべてのプラットフ ォームでのプログラム言語用に、サンプ ル・プログラム (HTML 形式) を提供しま す。これらのサンプル・プログラムは、 参照用としてのみ提供されています。サ ンプルは、すべてのプログラミング言語 で利用できるわけではありません。 HTML サンプルが利用できるのは、DB2 アプリケーション開発クライアントがイ ンストールされている場合だけです。 プログラムの詳細については、アプリケ ーション構築の手引き を参照してくださ い。	資料番号なし	db2hs
リリース情報			
DB2 コネクト 報	リリース情 DB2 コネクトの資料には含められなかつ た最新の情報が収録されています。	注 #2 を参照して ください。	db2cr
DB2 インストール情報	DB2 ブックには含められなかったインス トールに関する最新の情報が収録されて います。	製品 CD-ROM か らのみ利用でき ます。	
DB2 リリース情報	DB2 ブックには含められなかった DB2 製 品とその機能に関する最新の情報が収録 されています。	注 #2 を参照して ください。	db2ir

注:

1. ファイル名の 6 桁目の文字 *x* は、その資料の言語を表します。たとえば、ファイル名 db2d0e70 は、管理の手引き の英語版であることを示し、ファイル名 db2d0f70 は同じ資料のフランス語版を示します。資料の言語を表すためにファイル名の 6 桁目で使用されている文字は以下のとおりです。

言語	識別子
ブラジル・ポルトガル語	b
ブルガリア語	u
チェコ語	x
デンマーク語	d
オランダ語	q
英語	e
フィンランド語	y
フランス語	f
ドイツ語	g
ギリシャ語	a
ハンガリー語	h
イタリア語	i
日本語	j
韓国語	k
ノルウェー語	n
ポーランド語	p
ポルトガル語	v
ロシア語	r
簡体字中国語	c
スロベニア語	l
スペイン語	z
スウェーデン語	s
繁体字中国語	t
トルコ語	m

2. DB2 ブックには含められなかった最新の情報が、「リリース情報」で HTML 形式および ASCII ファイルとして利用できます。HTML 版は、インフォメーション・センターおよび製品 CD-ROM からご利用になれます。ASCII ファイルの参照方法:

- UNIX ベースのプラットフォームでは、ファイル `Release.Notes` を参照してください。このファイルは `DB2DIR/Readme/%L` ディレクトリーにあります。ここで `%L` は地域名を、`DB2DIR` は以下のものを表します。
 - `/usr/lpp/db2_07_01` (AIX の場合)
 - `/opt/IBMd2/V7.1` (HP-UX、DYNIX/ptx、Solaris、および Silicon Graphics IRIX の場合)
 - `/usr/IBMd2/V7.1` (Linux の場合)
- これ以外のプラットフォームでは、ファイル `RELEASE.TXT` を参照してください。このファイルは、製品がインストールされているディレクトリーにあります。OS/2 プラットフォームでは、**IBM DB2** フォルダをダブルクリックし、**Release Notes** アイコンをダブルクリックすることもできます。

PDF 資料の印刷

資料のハードコピー版が必要な場合、DB2 の資料 CD-ROM にある PDF ファイルを印刷することができます。Adobe Acrobat Reader を使用すれば、資料全体または特定のページを印刷することができます。ライブラリー内の各資料のファイルについては、45ページの表8 を参照してください。

Adobe Acrobat Reader の最新版は、Adobe の Web サイト <http://www.adobe.com> から入手できます。

PDF ファイルは、DB2 の資料 CD-ROM に収録されており、ファイル拡張子 PDF が付いています。PDF ファイルにアクセスするには以下のようにします。

1. DB2 の資料 CD-ROM を挿入します。UNIX ベースのプラットフォームの場合は、DB2 資料 CD-ROM をマウントします。マウントの手順については、概説およびインストール を参照してください。
2. Acrobat Reader を起動します。
3. 以下に示すいずれかの位置から必要な PDF ファイルを開きます。
 - OS/2 および Windows プラットフォームでは:
`x:%doc%language` ディレクトリー。ここで、*x* は CD-ROM ドライブを、*language* は 2 桁の言語を表す国コード (たとえば、EN は英語) を示します。
 - UNIX ベースのプラットフォームでは:
CD-ROM の `/cdrom/doc/%L` ディレクトリー。ここで、*/cdrom* は CD-ROM のマウント・ポイントを、*%L* は地域名を表します。

さらに、PDF ファイルを CD-ROM からローカル・ドライブまたはネットワーク・ドライブにコピーし、そこから参照することもできます。

印刷資料の注文方法

ハードコピー版の DB2 ブックは、個別に注文することができます。資料を注文するには、IBM 承認の販売業者または営業担当員に連絡してください。

オンライン・ヘルプへのアクセス

すべての DB2 構成要素で、オンライン・ヘルプを利用できます。以下の表に、さまざまな種類のヘルプを示します。

ヘルプの種類	内容	利用方法
コマンド・ヘルプ	コマンド行プロセッサの コマンド構文について説明 します。	コマンド行プロセッサの対話モードから、次のよ うに入力します。 ? <i>command</i> ここで <i>command</i> はキーワードまたはコマンド全体 を表します。 たとえば、? <i>catalog</i> と入力すると、すべての CATALOG コマンドに関するヘルプが表示され、 ? <i>catalog database</i> と入力すると、CATALOG DATABASE コマンドのヘルプが表示されます。
クライアント構成アシ スタントのヘルプ	そのウィンドウまたはノー トブックで実行できるタス クについて説明します。こ のヘルプは、知っておく必 要のある概説および前提条 件に関する情報を含いま す。また、ウィンドウやノ ートブックの制御の使用方 法を示します。	ウィンドウまたはノートブックから、「ヘルプ (Help)」押しボタンをクリックするか、または F1 キーを押します。
コマンド・センターの ヘルプ		
コントロール・センタ ーのヘルプ		
データウェアハウスセ ンターのヘルプ		
イベント・アナライザ ーのヘルプ		
情報カタログ・マネー ジャーのヘルプ		
サテライト管理センタ ーのヘルプ		
スクリプト・センター のヘルプ		

ヘルプの種類	内容	利用方法
メッセージ・ヘルプ	メッセージの原因、および取るべき処置を説明します。	<p>コマンド行プロセッサの対話モードから、次のように入力します。</p> <pre>? XXXnnnnn</pre> <p>ここで、<i>XXXnnnnn</i> は有効なメッセージ識別子を表します。</p> <p>たとえば、? SQL30081 と入力すると、メッセージ SQL30081 に関するヘルプを表示します。</p> <p>一度に 1 画面分のメッセージ・ヘルプを表示させるには、次のように入力します。</p> <pre>? XXXnnnnn more</pre> <p>メッセージ・ヘルプをファイルに保管するには、次のように入力します。</p> <pre>? XXXnnnnn > filename.ext</pre> <p>ここで、<i>filename.ext</i> はメッセージ・ヘルプを保管するファイルを表します。</p>
SQL ヘルプ	SQL ステートメントの構文について説明します。	<p>コマンド行プロセッサの対話モードから、次のように入力します。</p> <pre>help statement</pre> <p>ここで、<i>statement</i> は SQL ステートメントを表します。</p> <p>たとえば、help SELECT と入力すると、SELECT ステートメントのヘルプが表示されます。</p> <p>注: UNIX ベースのプラットフォームでは、SQL ヘルプを利用できません。</p>
SQLSTATE ヘルプ	SQL 状態およびクラス・コードについて説明します。	<p>コマンド行プロセッサの対話モードから、次のように入力します。</p> <pre>? sqlstate or ? class code</pre> <p>ここで、<i>sqlstate</i> は有効な 5 桁の SQL 状態を、<i>class code</i> は SQL 状態の最初の 2 桁を表します。</p> <p>たとえば、? 08003 によって SQL 状態 08003 のヘルプが表示され、? 08 によってクラス・コード 08 のヘルプが表示されます。</p>

オンライン情報の表示

この製品に付属のブックは、ハイパーテキスト・マークアップ言語 (HTML) ソフトコピー形式です。ソフトコピー形式では情報を検索または表示したり、ハイパーテキスト・リンクを利用して関連情報に移動したりすることができます。また、1 つの端末を超えてライブラリーを容易に共用することができます。

オンライン・ブックやサンプル・プログラムは、HTML バージョン 3.2 仕様に準拠するすべてのブラウザを使って表示できます。

オンライン・ブックまたはサンプル・プログラムは、次のようにして表示します。

- DB2 管理ツールを実行している場合、インフォメーション・センターを使用します。
- ブラウザーで、**ファイル (File) → ページを開く (Open Page)** をクリックします。次のようなページを開いて、DB2 情報に関する説明とリンクを表示してください。

- UNIX ベースのプラットフォームでは、以下のページを開きます。

```
INSTHOME/sql11ib/doc/%L/html/index.htm
```

ここで %L はロケール名です。

- その他のプラットフォームでは、以下のページを開きます。

```
sql11ib¥doc¥html¥index.htm
```

パスは DB2 がインストールされているドライブです。

インフォメーション・センターをインストールしていない場合、**DB2 Information** アイコンをダブルクリックしてページを開くことができます。このアイコンは、ご使用のシステムに応じて、製品のメイン・フォルダー内または Windows 「スタート」メニューにあります。

Netscape ブラウザーのインストール

システムに Web ブラウザーがインストールされていない場合、製品の箱の中にある Netscape CD-ROM から Netscape をインストールすることができます。インストールに関する詳細な説明については、以下を参照してください。

1. Netscape CD-ROM を挿入します。
2. UNIX ベースのプラットフォームでは、CD-ROM をマウントします。マウントの手順については、**概説およびインストール** を参照してください。

3. インストールの手順については、`CDNAVnn.txt` ファイルを参照します。ここで、`nn` は 2 桁の言語識別子を表します。ファイルは CD-ROM のルート・ディレクトリーにあります。

インフォメーション・センターを使用した情報へのアクセス

インフォメーション・センターを使用すると、DB2 製品情報にすばやくアクセスすることができます。インフォメーション・センターは、DB2 管理ツールを使用できるすべてのプラットフォームで利用できます。

インフォメーション・センターは「インフォメーション・センター (Information Center)」アイコンをダブルクリックすることによって開くことができます。このアイコンのある場所はシステムによって異なります。メイン・プロダクト・フォルダーか Windows の「スタート」メニューのどちらかです。

Windows プラットフォームの DB2 では、ツールバーおよびヘルプ・メニューを使用して、インフォメーション・センターにアクセスすることもできます。

インフォメーション・センターは 6 種類の情報を提供します。適切なタブをクリックすると、種類ごとに提供されているトピックが表示されます。

タスク (Tasks)

DB2 を使用して実行できる主要なタスク。

参照 (Reference)

DB2 参照情報 (キーワード、コマンド、API など)。

ブック (Books)

DB2 ブック。

トラブルシューティング (Troubleshooting)

エラー・メッセージのカテゴリーと、メッセージに対する回復処置。

サンプル・プログラム (Sample Programs)

DB2 アプリケーション開発クライアントに付属のサンプル・プログラム。DB2 アプリケーション開発クライアントをインストールしていない場合、このタブは表示されません。

Web

WWW 上にある DB2 情報。この情報にアクセスするには、ご使用のシステムから Web への接続が必要です。

リストから項目を 1 つ選択すると、インフォメーション・センターはビューアーを立ち上げて情報を表示します。選択した情報の種類に応じて、ビューアーはシステム・ヘルプ・ビューアー、エディター、または Web ブラウザーです。

インフォメーション・センターには検索機能が備わっており、リストを参照せずに特定のトピックを探することができます。

テキストの全検索を行うには、インフォメーション・センター内のハイパーテキスト・リンク「**DB2 オンライン情報の検索 (Search DB2 Online Information)**」検索フォームに従います。

通常、HTML 検索サーバーは自動的に始動します。HTML 情報の検索がうまくいかない場合は、以下の方法の 1 つを使用して、検索サーバーを始動しなければならない場合もあります。

Windows では

「スタート」をクリックし、「プログラム」→「IBM DB2」→「Information」→「Start HTML Search Server」を選択します。

OS/2 では

「DB2 (OS/2 版)」フォルダーをダブルクリックして、「Start HTML Search Server」アイコンをダブルクリックします。

HTML 情報の検索でこの他の問題が発生した場合は、リリース情報を参照してください。

注: 検索機能は、Linux、DYNIX/ptx、および Silicon Graphics IRIX 環境では利用できません。

DB2 ウィザードの使用

ウィザードを使用すると、各タスクをステップごとに進めることによって、さまざまな管理タスクを遂行することができます。ウィザードは、コントロール・センターおよびクライアント構成アシスタントを通して使用できます。以下の表では、ウィザードとその目的をリストしています。

注: データベース作成、索引作成、複数サイト更新の構成、およびパフォーマンス構成ウィザードは、区分データベース環境で使用できます。

ウィザード	内容	利用方法
データベース追加 (Add Database)	クライアント・ワークステーション上にデータベースのカタログを作成します。	クライアント構成アシスタントから、「追加 (Add)」をクリックします。
データベース・バックアップ (Back up Database)	バックアップ計画を決定、作成、およびスケジューリングします。	「コントロール・センター (Control Center)」からバックアップするデータベースを右クリックし、「バックアップ (Backup)」→「ウィザードを使用するデータベース (Database Using Wizard)」を選択します。
複数サイト更新の構成 (Configure Multisite Update)	複数サイト更新、分散トランザクション、または 2 フェーズ・コミットを構成します。	「コントロール・センター (Control Center)」から、「データベース (Databases)」フォルダーを右クリックして、「複数サイト更新 (Multisite Update)」を選択します。
データベース作成 (Create Database)	データベースを作成し、いくつかの基本的な構成タスクを実行します。	「コントロール・センター (Control Center)」から、「データベース (Databases)」フォルダーを右クリックして、「作成 (Create)」→「ウィザードを使用するデータベース (Database Using Wizard)」を選択します。
表作成 (Create Table)	基本的なデータ・タイプを選択して、表の基本キーを作成します。	「コントロール・センター (Control Center)」から、「表 (Tables)」アイコンを右クリックして、「作成 (Create)」→「ウィザードを使用する表 (Table Using Wizard)」を選択します。
表スペース作成 (Create Table Space)	新しい表スペースを作成します。	「コントロール・センター (Control Center)」から、「表スペース (Table Spaces)」アイコンを右クリックして、「作成 (Create)」→「ウィザードを使用する表スペース (Table Space Using Wizard)」を選択します。

ウィザード	内容	利用方法
索引作成 (<i>Create Index</i>)	すべての照会について、作成すべき索引および除去すべき索引を提案します。	「コントロール・センター (Control Center)」から、「索引 (Index)」アイコンを右クリックして、「作成 (Create)」→「ウィザードを使用する索引 (Index Using Wizard)」を選択します。
パフォーマンス構成 (<i>Performance Configuration</i>)	ビジネス要件に適合するように構成パラメーターを更新して、データベースのパフォーマンスを調整します。	「コントロール・センター (Control Center)」から、調整したいデータベースを右クリックして、「ウィザードを使用するパフォーマンスの構成 (Configure Performance Using Wizard)」を選択します。 区分データベース環境では、「Database Partitions」視点から、調整したい最初のデータベース区画を右クリックして、「ウィザードを使用するパフォーマンスの構成 (Configure Performance Using Wizard)」を選択します。
データベース復元 (<i>Restore Database</i>)	障害の後、データベースを回復します。どのバックアップを使用し、どのログを再生するかの判別を支援します。	「コントロール・センター (Control Center)」から復元するデータベースを右クリックし、「復元 (Restore)」→「ウィザードを使用するデータベース (Database Using Wizard)」を選択します。

文書サーバーのセットアップ

デフォルトでは、DB2 情報はローカル・システムにインストールされます。つまり、DB2 情報にアクセスする必要のある各担当者が同じファイルをインストールする必要があります。DB2 情報を 1 か所に格納するには、次のようにします。

1. %sqllib%doc%html のすべてのファイルとサブディレクトリーを、ローカル・システムから Web サーバーにコピーします。各ブックには独自のサブディレクトリーがあり、そのブックを構成する必要な HTML および GIF ファイルが入っています。ディレクトリー構造は常に同じ状態に保つ必要があります。

2. Web サーバーを構成して、ファイルを新しい場所で検索するようにします。さらに詳しい情報については、インストールおよび構成 補足の NetQuestion 付録を参照してください。
3. インフォメーション・センターの Java バージョンをご使用の場合は、すべての HTML ファイルのベース URL を指定できます。この URL はブックのリストに使用してください。
4. 資料ファイルが表示されるようになったなら、よく使うトピックにはブックマークを付けておいてください。ブックマークを付けるページは、たとえば以下のものがあります。
 - ブックのリスト
 - 頻繁に使用されるブックの目次
 - 頻繁に参照する情報 (たとえば、ALTER TABLE トピックなど)
 - 検索フォーム

中央のマシンから DB2 ユニバーサル・データベース オンライン文書ファイルを提供する方法については、インストールおよび構成 補足の NetQuestion 付録を参照してください。

オンライン情報の検索

HTML ファイルの情報を検索するには、以下の方法のどれか 1 つを使用してください。

- 最上部にある「**検索 (Search)**」をクリックします。検索フォームを使用して特定のトピックを見つけます。この機能は、Linux、DYNIX/ptx、または Silicon Graphics IRIX 環境ではご利用になれません。
- 最上部にある「**索引 (Index)**」をクリックします。索引を使用して、ブック内の特定のトピックを見つけます。
- HTML 資料またはヘルプの目次あるいは索引を表示してから、Web ブラウザーの検索機能を利用して資料内の特定のトピックを見つけます。
- Web ブラウザーのブックマーク機能を使用して、特定のトピックにすばやく戻ります。
- インフォメーション・センターの検索機能を使用して、特定のトピックを検索します。詳しくは、59ページの『インフォメーション・センターを使用した情報へのアクセス』を参照してください。

付録B. 特記事項

本書において、日本では発表されていない IBM 製品 (機械およびプログラム)、プログラミングまたはサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、弊社がこのような IBM 製品、プログラミングまたはサービスを、日本で発表する意図があることを必ずしも示すものではありません。本書で、IBM ライセンス・プログラムまたは他の IBM 製品に言及している部分があっても、このことは当該プログラムまたは製品のみが使用可能であることを意味するものではありません。これらのプログラムまたは製品に代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない機能的に同等な他社のプログラム、製品またはサービスを使用することができます。ただし、IBM によって明示的に指定されたものを除き、これらのプログラムまたは製品に関連する稼働の評価および検証はお客様の責任で行っていただきます。

IBM および他社は、本書で説明する主題に関する特許権 (特許出願を含む)、商標権、または著作権を所有している場合があります。本書は、これらの特許権、商標権、および著作権について、本書で明示されている場合を除き、実施権、使用権等を許諾することを意味するものではありません。実施権、使用権等の許諾については、下記の宛先に、書面にてご照会ください。

〒106-0032 東京都港区六本木 3 丁目 2-31
AP 事業所
IBM World Trade Asia Corporation
Intellectual Property Law & Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

本書に含まれる情報には、技術的に不正確なもの、または誤植が含まれる場合があります。これらに対する変更は、定期的に行われます。これらの変更は、資料の改訂版に含まれます。IBM は、本書で説明している製品、プログラムに対して、予告なく改良、変更を加える場合があります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するもので

はありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様になら義務も負わせない適切な方法で、使用もしくは配布することがあります。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Canada Limited
Office of the Lab Director
1150 Eglinton Ave. East
North York, Ontario
M3C 1H7
CANADA

本プログラムに関する上記の情報は、適切な条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

本書に含まれるパフォーマンス・データは、制御された環境下で決定されています。したがって、その他の稼働環境で得られる結果とは、かなり異なる可能性もあります。一部の測定値は、開発中のシステムを使用している場合があり、これらの測定値が一般的に提供可能なシステムで同様の数値になることを保証するものではありません。さらに、一部の測定値が推定されたものもあります。実測値と異なる場合があります。本書のユーザーは、使用される特定の環境での該当データを確認してください。

IBM 以外の製品については、当該製品の提供者から直接、出版されている資料または一般公開されている情報から入手しました。IBM は、これらの製品についてはテストを行っておらず、これらの IBM 以外の製品に関する性能、互換性またはその他の主張について確認することはできません。IBM 以外の製品の機能に対する質問は、それぞれの製品提供者にお問い合わせください。

IBM の将来の方向性または意図については、予告なしに変更または中止する場合があります。IBM の目的および目標のみを示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれていますが、これは説明に具体性を与えるために記載されたものであり、それらの例には、個人、企業、ブランドの、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。それらの名前はすべて架空のものであり、また名称や住所が類似する企業が実在しても、それは偶然に過ぎません。

著作権：

本書に含まれる情報には、サンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語の形式で含まれており、様々な、オペレーティング・プラットフォームでのプログラミング技法を示しています。お客様は、これらのサンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームでアプリケーション・プログラミング・インターフェースが実行可能となるためのアプリケーション・プログラムを開発、使用、販売または配布もしくは転送する目的のためだけに、サンプル・プログラムを、IBM に対する別途料金を支払うことなく、複製、変更、配布または転送することができます。これらのサンプルは、すべての条件下で十分にテストを行っていません。したがって、IBM は、これらのプログラムの信頼性、実用性または機能について、いかなる保証も負いません。

サンプル・プログラムまたはその改変版の複製物には、全部複製か部分複製かを問わず、次の著作権表示を必ず行うものとします。

© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。 © Copyright IBM Corp. _年_. All rights reserved.

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

ACF/VTAM	IBM
AISPO	IMS
AIX	IMS/ESA
AIX/6000	LAN DistanceMVS
AIXwindows	MVS/ESA
AnyNet	MVS/XA
APPN	Net.Data
AS/400	OS/2
BookManager	OS/390
CICS	OS/400
C Set++	PowerPC
C/370	QBIC
DATABASE 2	QMF
DataHub	RACF
DataJoiner	RISC System/6000
DataPropagator	RS/6000
DataRefresher	S/370
DB2	SP
DB2 Connect	SQL/DS
DB2 Extenders	SQL/400
DB2 OLAP Server	System/370
DB2 Universal Database	System/390
Distributed Relational Database Architecture	SystemView VisualAge
DRDA	VM/ESA
eNetwork	VSE/ESA
Extended Services	VTAM
FFST	WebExplorer
First Failure Support Technology	WIN-OS/2

次のものは、他社の商標または登録商標です。

Tivoli および NetView は、米国およびその他の国における Tivoli Systems Inc. の商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT、および Windows ロゴは Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group がライセンスしている米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

索引

日本語、数字、英字、特殊文字の順に配列されています。なお、濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

インストール

Netscape ブラウザー 58

インストール、QueryEnabler の 3

インストール、QueryMonitor の 21

インフォメーション・センター 59

ウィザード

索引 61

タスクを遂行する 60

データベース作成 61

データベース追加 61, 62

データベース復元 62

データベース・バックアップ 61

パフォーマンス構成 62

表作成 61

表スペース作成 61

複数サイト更新の構成 61

ウィンドウ

「ジョブの詳細情報 (Detail Job Information)」 33

「ジョブの情報 (Job Information)」 32

「表示する列 (Columns for Display)」 27

QueryMonitor のメイン 24

オンライン情報

検索 63

表示 58

オンライン・ヘルプ 56

[カ行]

間隔オプション、照会のスケジュール時の 13

クリア、フィルター基準の 27

「結果情報 (Result Information)」タブ 33

ページ 33

「結果情報 (Result Information)」タブ 33

「結果情報 (Result Information)」ページ、フィールド 33

結果情報、表示 33

結果セット、削除 39

言語識別子

ブック 53

検索

オンライン情報 60, 63

構成、QueryEnabler の 3

[サ行]

再実行依頼、ジョブの 38

最新情報 54

最新表示

ジョブの詳細情報 31

ジョブ・リスト 30

サイズ変更、列の 30

索引ウィザード 61

削除、結果セット 39

サンプル・プログラム

プラットフォーム共通の 53

HTML 53

「時刻情報 (Time Information)」

タブ 34

ページ 34

「時刻情報 (Time Information)」ページ、フィールド 34

時刻情報、表示 34

実行、照会の 9

実行依頼、新しいジョブの 38

実行依頼、以前に実行依頼した照会の 15

実行依頼、照会、初回 7

指定、どのジョブを表示するか 26

始動、QueryMonitor の 22

使用、フィルター基準の 26

使用、QueryEnabler の 5

使用可能にする、Java ツール、QueryEnabler のために 4

使用可能にする、QueryEnabler での照会のキャプチャーを 4

ジョブ

新しいジョブの実行依頼 38

結果情報の表示 33

結果セットの削除 39

再実行依頼 38

時刻情報の表示 34

状況の変更 39

詳細情報の最新表示 31

詳細情報の表示 31

「ジョブの詳細情報 (Detailed Information for Job)」ウィンドウのクローズ 31

全般情報の表示 36

どのジョブを表示するか 26

フィルター基準のクリア 27

フィルター基準の使用 26

リストの最新表示 30

リストの表示 26

列ごとの並べ替え 29

ジョブの状況の変更 39

ジョブの詳細

ウィンドウのクローズ 31

ウィンドウの表示 31

最新表示 31

ジョブの詳細情報

クローズ 31

最新表示 31

表示 31

「ジョブの詳細情報 (Detailed Information for Job)」ウィンドウ

33

「ジョブの情報 (Job Information)」ウィンドウ 32

ジョブ・リスト

- 最新表示 30
 - どのジョブを表示するかの指定 26
- 表示 26
 - 列ごとの並べ替え 29
 - 列の表示 27
- スケジュール、後で実行する照会の 11
- セットアップ、文書サーバーの 62
- 説明、QueryEnabler 3
- 選択、列の 27
 - 「全般 (General)」
 - タブ 36
 - ページ 36
 - 「全般 (General)」 ページ、フィールド 36
- 全般情報、表示 36

[タ行]

タブ

- 上にあるフィールド 32
 - 「結果情報 (Result Information)」 33
 - 「時刻情報 (Time Information)」 34
 - 「全般 (General)」 36
- データベース作成ウィザード 61
- データベース追加ウィザード 61, 62
- データベース・バックアップ・ウィザード 61
- 定義、ジョブの実行依頼オプションの 7
- 停止、QueryMonitor の 22
- デフォルトの列 24

[ナ行]

- 並べ替え、ジョブ・リストを列ごとに 29

[ハ行]

- パフォーマンス構成ウィザード 62
- 表作成ウィザード 61
- 表示
 - オンライン情報 58

表示 (続き)

- 結果情報 33
- 時刻情報 34
 - ジョブの詳細情報 31
 - ジョブ・リスト 26
- 全般情報 36
 - 「表示する列 (Columns for Display)」ウィンドウ 27
- 表スペース作成ウィザード 61
- フィールド
 - 「結果情報 (Result Information)」 ページ 33
 - 「時刻情報 (Time Information)」 ページ 34
 - 「全般 (General)」 ページ 36
- フィルター基準 26
- フィルター基準、クリア 27
- 復元ウィザード 62
- 複数サイト更新の構成ウィザード 61
 - ブック 43, 55
 - ページ
 - 「結果情報 (Result Information)」 33
 - 「時刻情報 (Time Information)」 34
 - 「全般 (General)」 36

[マ行]

- メイン・ウィンドウ、QueryMonitor 24

[ラ行]

- リリース情報 54
- 列
 - サイズ変更 30
 - ジョブ・リストの並べ替え 29
 - 選択 27
 - デフォルト 24

D

- DB2 ライブラリー
 - 印刷版のブックの注文 55

DB2 ライブラリー (続き)

- インフォメーション・センター 59
 - ウィザード 60
- オンライン情報の検索 63
- オンライン情報の表示 58
- オンライン・ヘルプ 56
- 構成内容 43
- 最新情報 54
- セットアップ、文書サーバーの 62
 - ブック 43
 - ブックの言語識別子 53
 - PDF 資料の印刷 55
- DYN_QUERY_MGMT データベース・パラメーター 4

H

HTML

- サンプル・プログラム 53

J

- JAVA_HEAP_SZ インスタンス・パラメーター 4

N

- Netscape ブラウザー
 - インストール 58

P

- PDF 55
- PDF 資料の印刷 55

Q

- QueryEnabler
 - インストール 3
 - 構成 3
 - 説明 3
- QueryMonitor
 - 新しいジョブの実行依頼 38
 - インストール 21

QueryMonitor (続き)

- 結果セットの削除 39
- 始動 22
- 詳細情報の最新表示 31
- ジョブの再実行依頼 38
- ジョブの状況の変更 39
 - 「ジョブの詳細情報 (Detailed Information for Job)」ウィンドウのクローズ 31
- ジョブの詳細情報の表示 31
- ジョブ・リストの最新表示 30
- ジョブ・リストの表示 26
- 説明 21
- 停止 22
- 特定のジョブだけの表示 26
 - どのジョブを表示するか指定 26
- メイン・ウィンドウ 24
- メイン・ウィンドウの押しボタン 24
- 列の選択 27

S

SmartGuides

- ウィザード 60

IBM と連絡をとる

技術上の問題がある場合は、時間をとって**問題判別の手引き** に定義されている処置を検討し、それらの提案を実行した後で、DB2 顧客サービスに連絡をとってください。この資料には、DB2 顧客サービスがお客さまを支援するために必要とする情報が説明されています。

製品情報

以下の情報は英語で提供されます。内容は英語版製品に関する情報です。

<http://www.ibm.com/software/data/>

DB2 World Wide Web ページには、ニュース、製品説明、研修スケジュールなどの DB2 に関する最新情報が提供されています。ただし、提供されている情報は英語です。

<http://www.ibm.com/software/data/db2/library/>

「DB2 Product and Service Technical Library」では、よくされる質問 (FAQ)、修正内容、資料、および最新の DB2 技術情報などの情報へのアクセスが提供されています。

注: この情報のご提供は英語のみとなりますのでご注意ください。

<http://www.elink.ibm.com/pbl/pbl/>

「International Publications」注文用 Web サイトでは、マニュアルの注文方法についての情報を提供しています。ただし、提供されている情報は英語です。

<http://www.ibm.com/education/certify/>

IBM の「Professional Certification Program」Web サイトでは、DB2 を含むさまざまな IBM 製品の認証テストの情報を提供しています。ただし、提供されている情報は英語です。

<ftp.software.ibm.com>

匿名でログオンしてください。ディレクトリー /ps/products/db2 には、DB2 および多数の他製品に関連したデモ、修正プログラム、情報、およびツールがあります。ただし、提供されている情報は英語です。

comp.databases.ibm-db2, bit.listserv.db2-l

これらのインターネット・ニュースグループは、ユーザーが DB2 製品に関する自分の経験について話し合うために利用できます。ただし、提供されている情報は英語です。

CompuServe: GO IBMDB2

このコマンドを入力すると、IBM DB2 Family forum にアクセスできます。すべての DB2 製品が、このフォーラムでサポートされています。ただし、提供されている情報は英語です。

米国以外の国で IBM に連絡する方法については、*IBM Software Support Handbook* の Appendix A を参照してください。この資料にアクセスするには、Web ページ: <http://www.ibm.com/support/> にアクセスし、ページの最下部にある「IBM Software Support Handbook」リンク・ボタンを選択します。

注: 国によっては、IBM が承認している販売業者が、IBM サポート・センターの代わりにそれら販売業者のサポート・センターに連絡する場合があります。



Printed in Japan

SC88-8527-00



日本アイ・ビー・エム株式会社

〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12